

使い方の手びき 《取扱説明書》

MY **LOCK** 250D
JANOME

ごあいさつ

この度は「ジャノメ・マイロック・250D」をお買い上げ頂きましてありがとうございます。

「ジャノメ・マイロック・250D」は、ジャノメミシンが、70余年の豊かな経験と技術の蓄積から開発した高級ミシンです。

最新の生産技術を備えた工場で、厳しい品質管理を経てお客様にお届け致しました。

品質面でも、サービス面でも安心してお使いいただけるミシンです。未長くご愛用され素敵な手作りライフをお楽しみください。

なお、ご使用に際しましては、この「使い方の手引き」をよくお読みになり、正しくお使いください。



ご使用前に、この取扱説明書を十分、お読み下さい。

この取扱説明書はお使いになる方が、いつでも見られるところに保管して下さい。

安全にご使用いただくために

このミシンを、安全にご使用していただくために、以下のことがらを守って下さい。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY



警告 感電、火災の恐れがあります

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用下さい。
2. 以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いて下さい。
 - ・ミシンのそばを離れるとき
 - ・ミシンを使用したあと
 - ・ミシン使用中に停電したとき



注意 感電、火災、けがの原因となります

1. フットコントローラーの上に物を乗せないで下さい。
2. お客様自身での分解、改造はしないで下さい。
3. ミシンの操作時は、ルーパーカバー、布板などのカバー類を閉じて下さい。
4. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、ルーパー、メス、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないで下さい。

5. 曲がった針はご使用にならないで下さい。
6. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないで下さい。
7. お子様のご使用になるときや、お子様の近くでご使用される場合は、特に安全に注意して下さい。
8. 以下のことをするときは、電源スイッチを切って下さい。
 - ・針、針板、押え、アタッチメント、メスを交換するとき
 - ・針糸、ルーパー糸をセットするとき
 - ・電球を交換するとき(電球が冷えてから行って下さい)
 - ・取扱説明書に記載のあるお手入れを行うとき
9. ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店にて点検、修理、調整をお受け下さい。
 - ・正常に作動しないとき
 - ・落下などにより破損したとき
 - ・水に濡れたとき
 - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき
 - ・異常な臭い、音がするとき

目次

準備

☆各部の名まえ	3~4
☆標準付属品	5
☆はずみ車の回転方向	6
☆布板のあげ方、しめ方	6
☆ルーパーカバーのあげ方、しめ方	6
☆糸掛けスタンドの位置決め	7
☆糸こま押え、糸こまネットのつけ方	7
☆針のとりかえ方	8
☆押えのあげ方、さげ方	8
☆押えのはずし方、つけ方	9
☆押え圧の調節	9
☆縫い目あらさの調節	10
☆縫い目伸縮の調節	10
☆上メスの解除	11
☆上メスのもどし方	11
☆切り幅の調節	11
☆ふちかがり縫いと 巻き縫いの切り替え	12
☆2本糸縫いへの切り替え	13
☆補助糸調子スライドつまみと スライド糸案内の設定	14
☆糸の通し方	15~23
★下ルーパー糸の通し方	16~17

★上ルーパー糸の通し方	18~19
★右針糸の通し方	20~21
★左針糸の通し方	22~23
☆電源をつなぎましょう	24
☆速さの調節のし方	24

ふちかがり縫い

☆試し縫いをしましょう	25
★縫いはじめ	
★縫いおわり	
★つづけて縫うとき	
★ガイドラインの使い方	
☆縫いはじめ、縫い終わりの糸の始末、 縫い目のほどき方	26
☆糸調子の出し方(2本針4本糸)	27
★正しい糸調子	27
★糸調子の調節のし方	27~28
☆糸調子の出し方 (1本針3本糸)	29~30
★右針を使うとき (かがり幅 3.5 mm)	29
★左針を使うとき (かがり幅 5.7 mm)	29

★正しい糸調子	29
★糸調子の調節のし方	30
☆布に適した糸や針を選ぶ目安 (ふちかがり縫いと合わせ縫い)	31

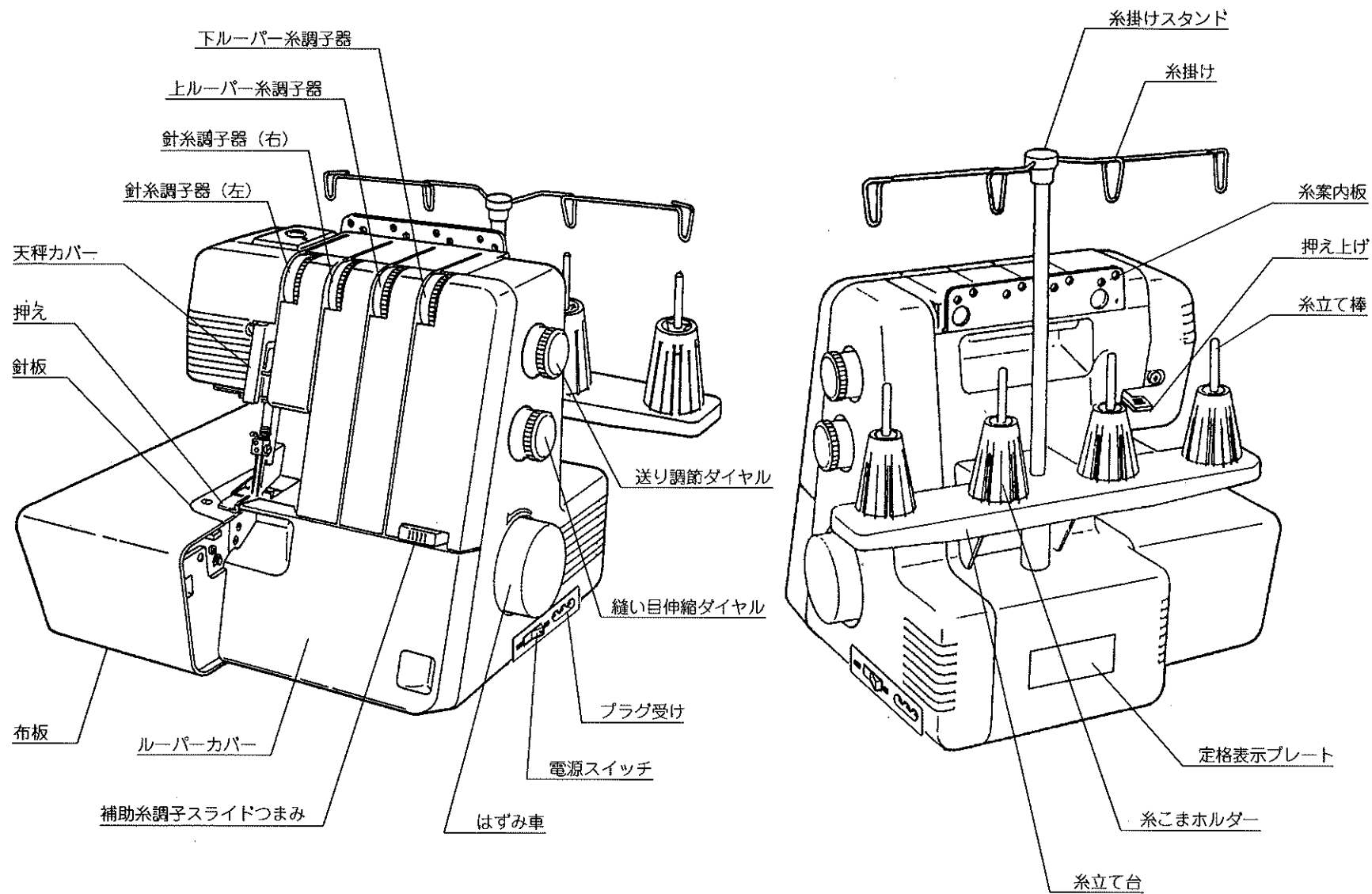
応用縫い

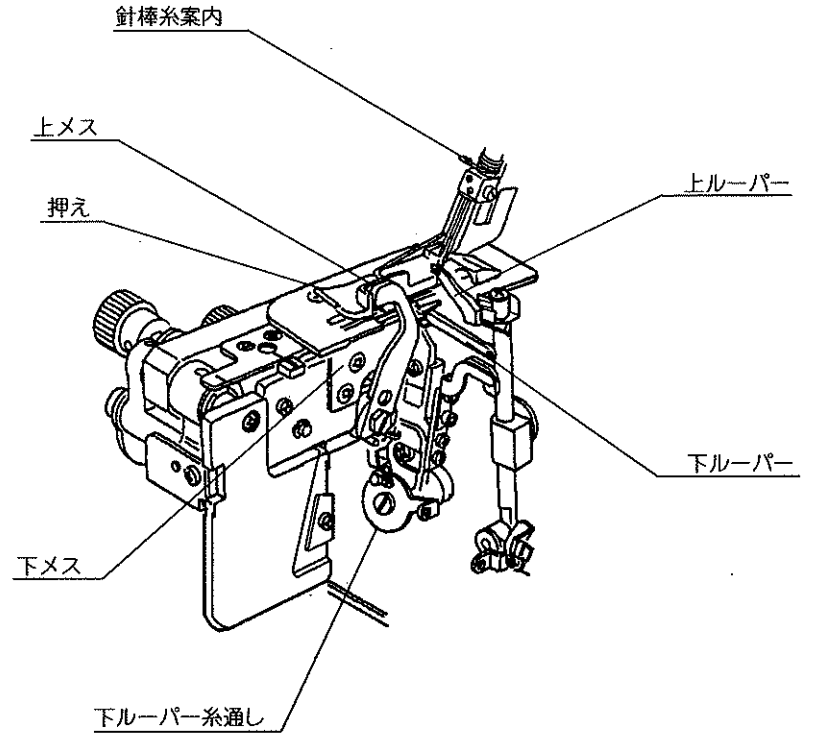
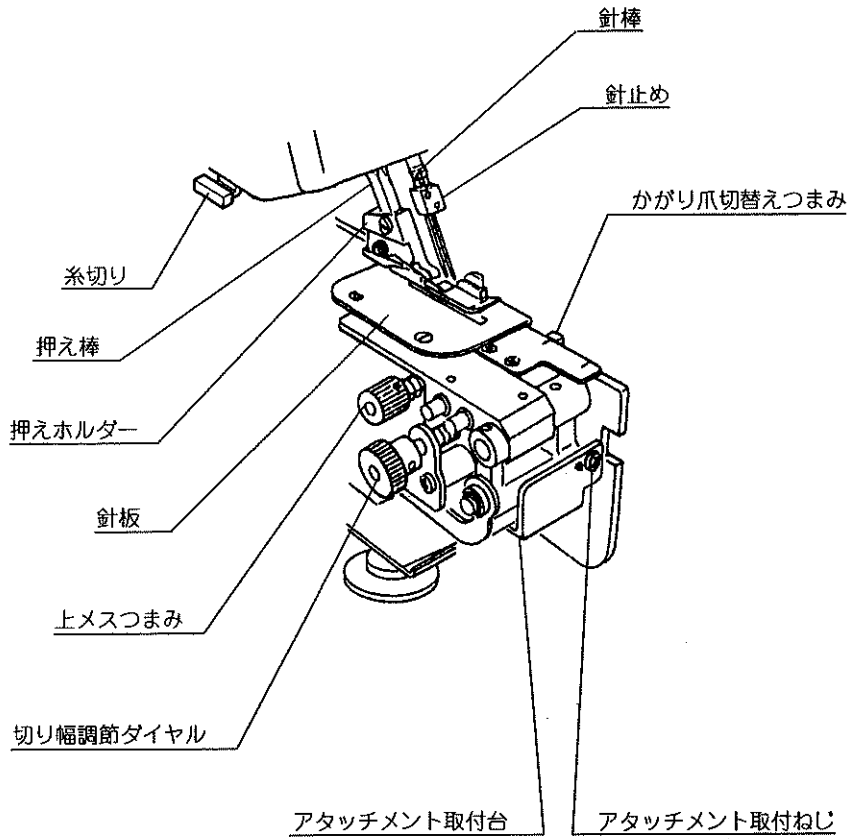
☆巻き縫い、ピコ縫い、 細ロック縫い	32
☆布と糸の種類と糸調子の目安	33
☆縁飾り縫い	34
☆ギャザーよせ	34
☆ピンタック	35
☆コーナー部の上手な縫い方	36

ミシンの調整と手入れ

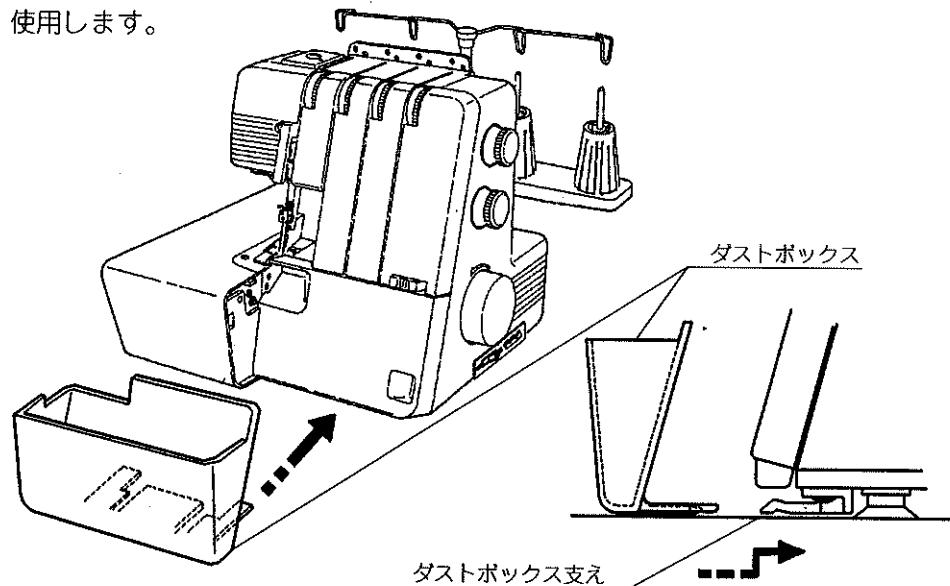
☆電球のとりかえ方	37
☆送り歯の掃除	37
☆切りくずの掃除	38
☆注油のし方	38
☆別売付属品	39
☆調子がよくないときの直し方	40

☆ 各部の名まえ

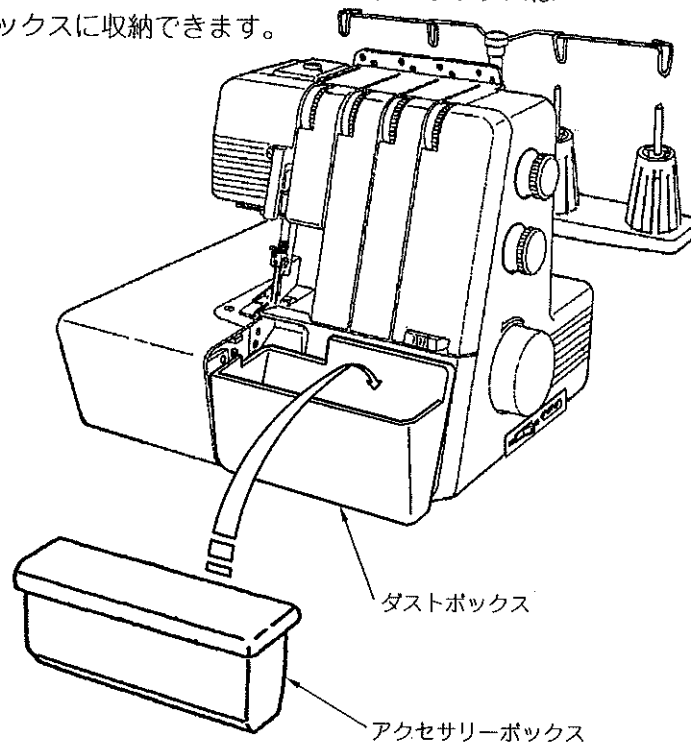




ダストボックス支えの突起部とルーパーカバーの間にダストボックスの突起部を差し込み布くず受けとして使用します。

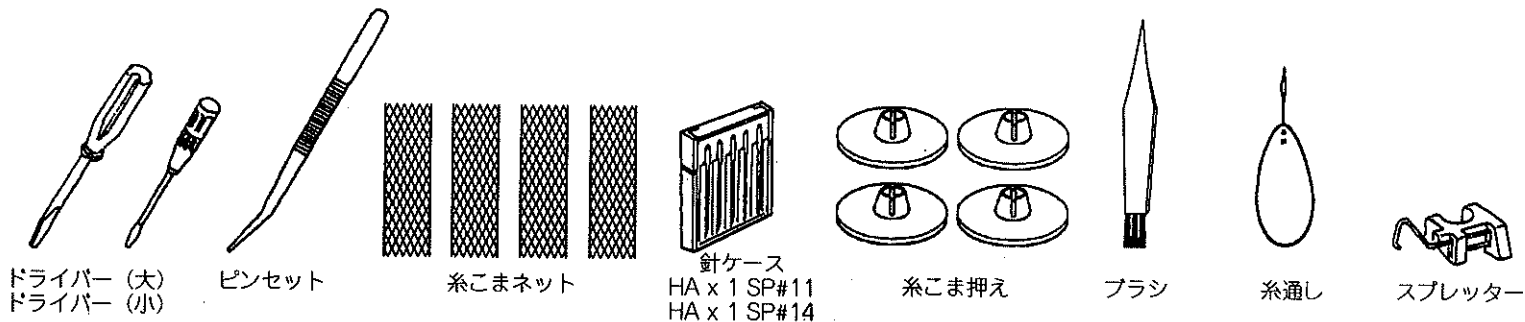


ミシンをお使いにならない時、アクセサリボックスはダストボックスに収納できます。

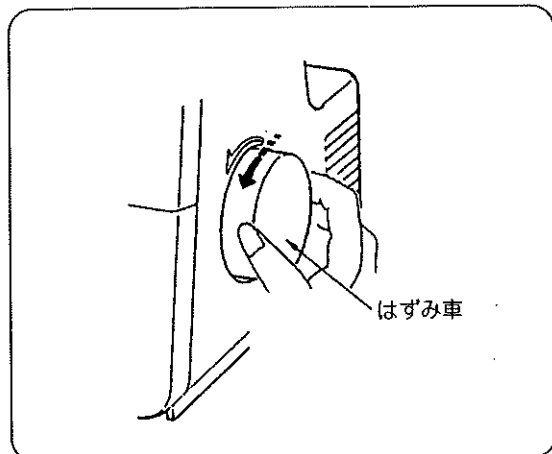


☆ 標準付属品

● アクセサリボックス内の付属品

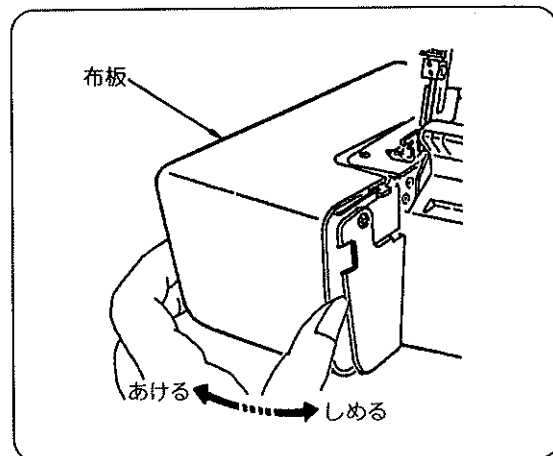


☆ はずみ車の回転方向



* はずみ車は、手前にまわします。

☆ 布板のあけ方、しめ方

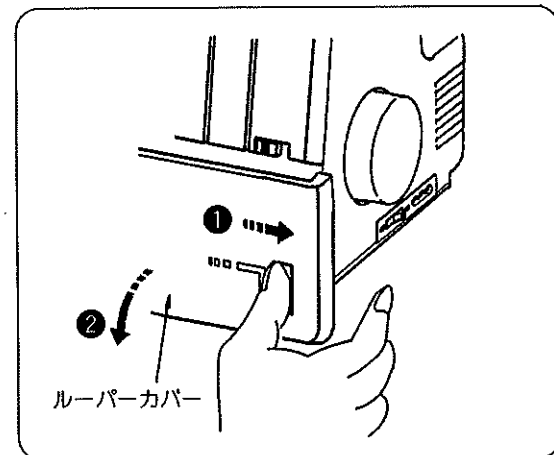


⚠ 電源スイッチを切ってください。

★ あけ方
左へ押してあけます。

★ しめ方
右へ押してしめます。

☆ ルーパーカバーのあけ方、しめ方

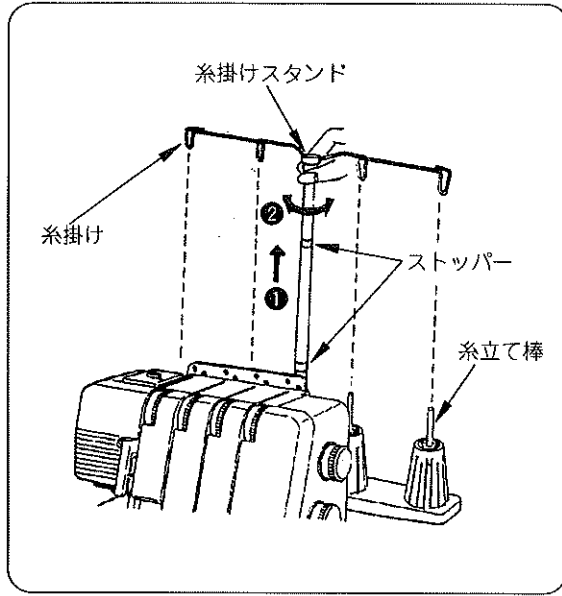


⚠ 電源スイッチを切ってください。

★ あけ方
右いっぱい寄せながら、手前にひきます。

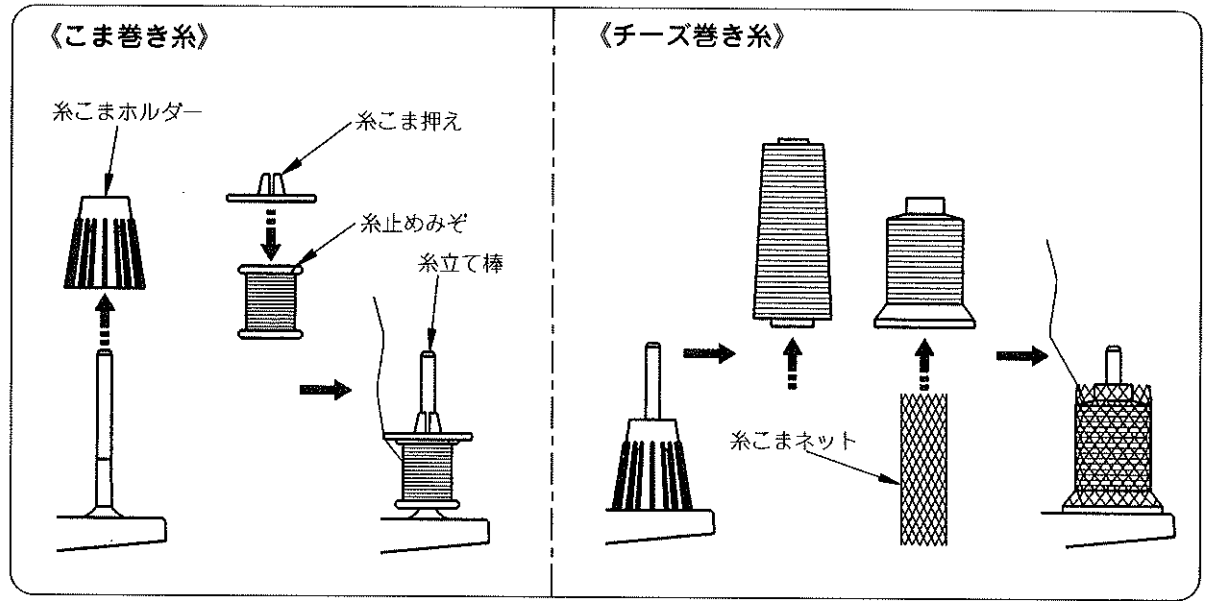
★ しめ方
もちあげて軽く押しつけます。

☆ 糸掛けスタンドの位置決め



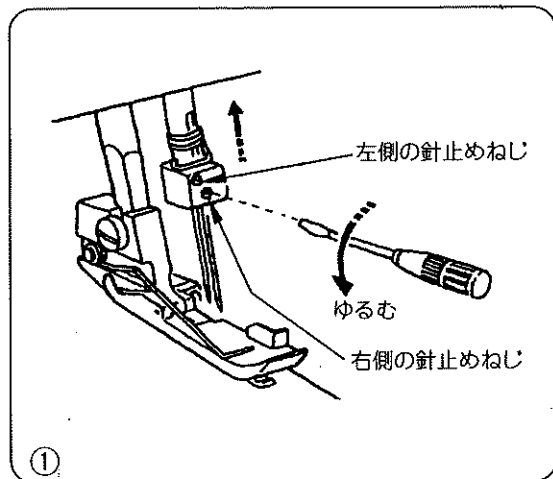
- ① 糸掛けスタンドをいっぱい伸ばします。
- ② 糸掛けが糸立て棒の真上にくるように、糸掛けスタンドを回転させて、ストッパーで位置を決めます。

☆ 糸こま押え、糸こまネットのつけ方



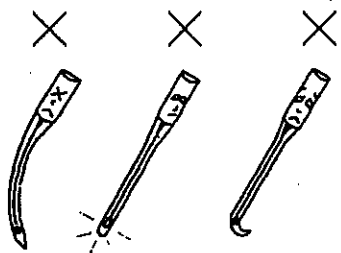
- このミシンはこま巻き糸と、チーズ巻き糸が使用できます。
- * こま巻き糸は、糸巻きの糸止めみぞのあるほうを上にして、糸こま押えをはめてください。
- * 化繊糸などの巻きがくずれやすい糸を使用するときは、付属の糸こまネットを下からかぶせてご使用ください。

☆ 針のとりかえ方

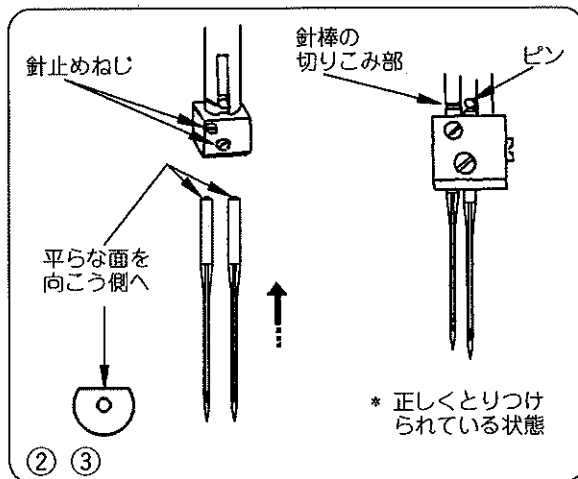


⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ① 針をあげ、とりかえる針の針止めねじをゆるめて、はずします。



⚠ 全体にまがった針や、針先のまがったり、つぶれた針は、使用しないでください。



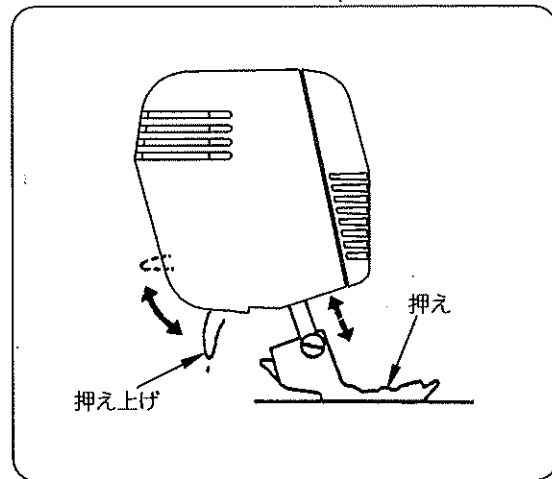
- ② 右側の針をつけるとき
針止めの右側の穴に、針の平らな面を向こう側に向けて、針棒のピンにあたるまでさしこみ、右側の針止めねじをかたく締めます。

- ③ 左側の針をつけるとき
針止めの左側の穴に、針の平らな面を向こう側に向けて、針棒の切り込みにあたるまでさしこみ、かたく締めます。

* 片方の針のみ使用するとき、使わない方の針止めねじは、はずれない様にかかるく締めておきます。

* 針が正しくとりつけられていると、左側の針は、右側の針よりも少し上にあがった位置にあります。

☆ 押えのあげ方、さげ方



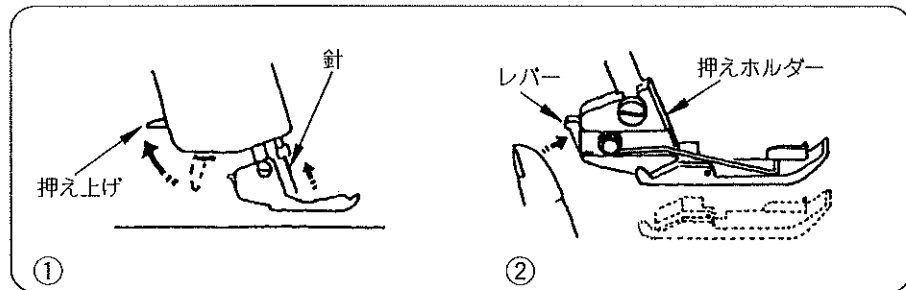
押えをあげさげする時は、押え上げを上下に動かします。

* 一般に、糸を通しなおすとき以外は、押えをさげたままにして使用します。

* 押え上げをあげると、糸調子皿が開放されて糸調子が、ゆるみます。

☆ 押えのはずし方、つけ方

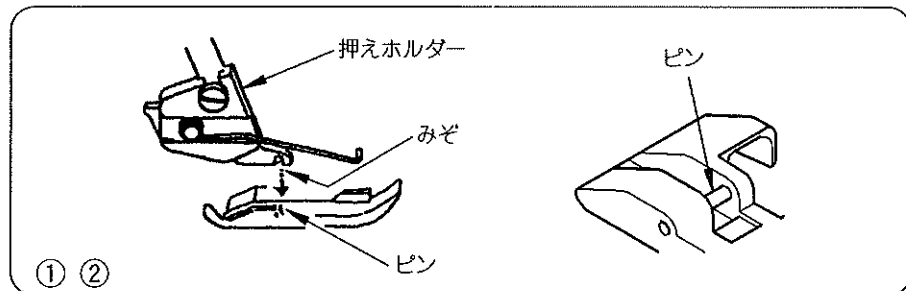
★ はずし方



⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ① 針をあげ、押え上げをあげます。
- ② 押えホルダーのレバーを押して、押えをはずします。

★ つけ方

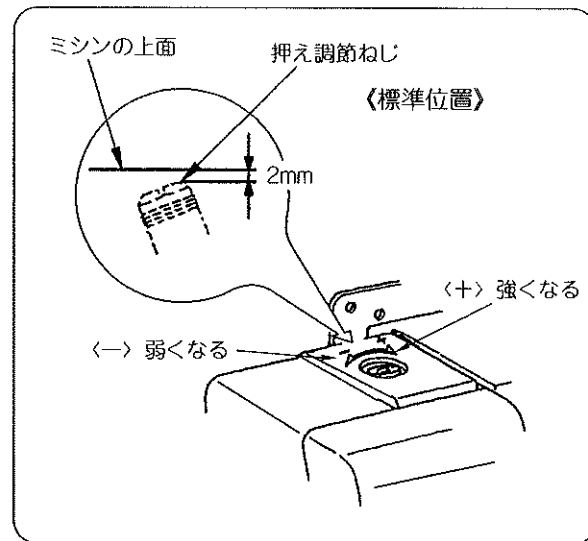


⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ① 押えのピンを押えホルダーのみぞの真下において、
- ② 押え上げを下げれば自動的にセットされます。

* 押え上げをあげ、押えが確実に付いているのを確認してください。

☆ 押え圧の調節

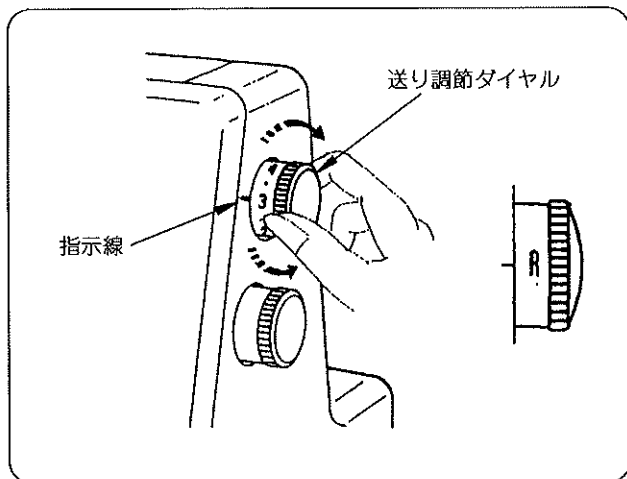


* このミシンは、通常、押え圧を調節する必要はありませんが、極薄もの、極厚ものとき押え調節ねじで調節してください。

- 極薄ものときは、圧力を弱くします。
- 極厚ものときは、圧力を強くします。

* 縫い終わったら、押え調節ねじは標準位置にもどしておいてください。
押え調節ねじの標準位置は、ミシンの上面からおよそ2mm位低い位置です。

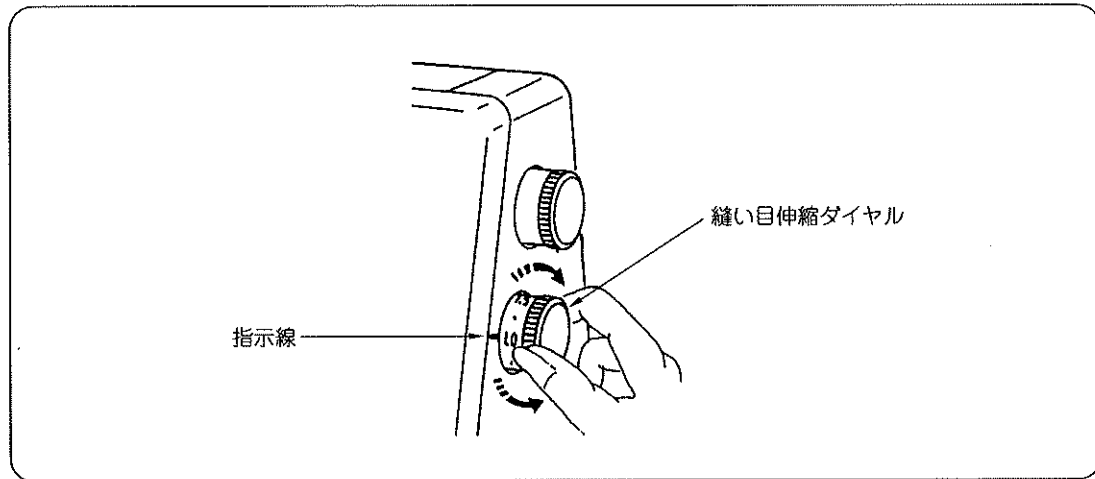
☆ 縫い目あらしの調節



縫い目あらしの調節で縫いの種類に応じた縫い目あらしを選ぶことができます。送り調節ダイヤルをまわして、目盛を指示線にあわせます。

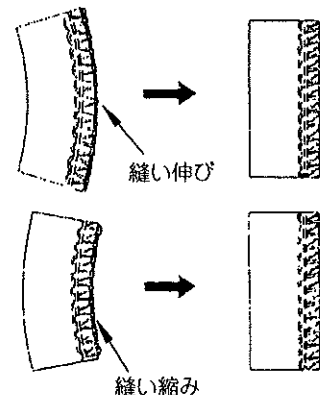
- * 縫いの種類に応じて目盛を選択してください。
- * 縫い目あらしは、最小1mmから最大5mmまで調節できます。
- * 送り調節ダイヤルの目盛「R」は、巻き縫い又は、細ロック縫いをするときの縫い目あらしで、約1.5mmです。

☆ 縫い目伸縮の調節



縫い目伸縮の調節で、布の縫い伸び、縫い縮みを直すことができます。縫い目伸縮ダイヤルをまわして、目盛を指示線に合わせます。

- ★ 布地が伸びてしまうときの直し方
縫い目伸縮ダイヤルを手前側へまわし「2.0」の方へ大きくするに従い、縫い伸び防止の効果が高まります。
- ★ 布地が縮んでしまうときの直し方
縫い目伸縮ダイヤルを向こう側へまわし「0.5」の方へ小さくするに従い、縫い縮み防止の効果が高まります。

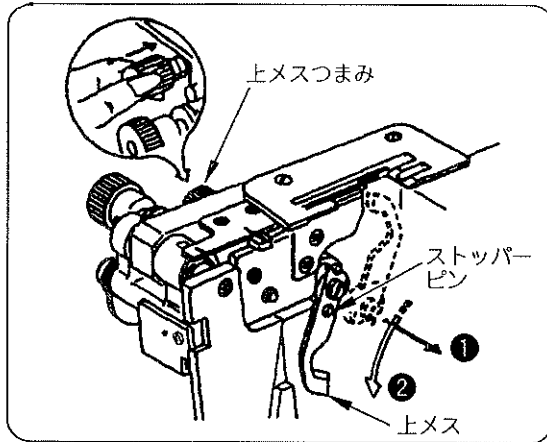


* 縫いの安定のために、送り調節ダイヤルを4mmより大きくすると最大伸縮比を自動的に制限する方式を採用しています。

(送り調節ダイヤルが5mmのときは、最大伸縮比は、1.8に制限されます。)

* 縫い目伸縮目盛「1.0」は伸縮比1.0を表し、縫い目伸縮のかかっていない状態です。(伸縮比は差動比とも呼ばれます。)

☆ 上メスの解除

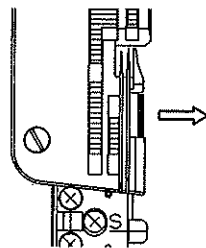


⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ① ルーパーカバーと布板をひらきます。
- ② 上メスつまみを右へいっぱい押しながら手前に回して、ストッパーピンを上メスの穴に入れます。
- ③ ルーパーカバーと布板をしめます。

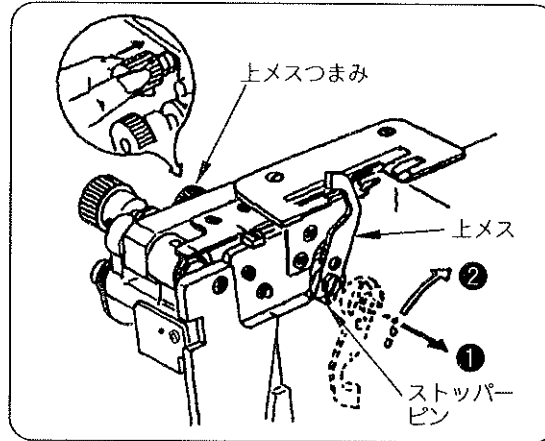


(A) 布縁が縫い目にとどかない場合、



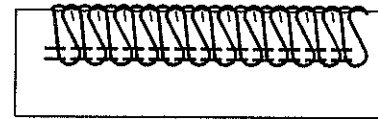
下メスを右へ

☆ 上メスのもどし方

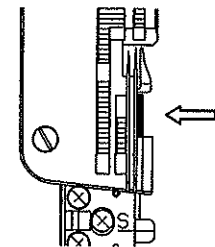


⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ① ルーパーカバーと布板をひらきます。
- ② 上メスつまみを右へいっぱい押しながら向こう側に回して、ストッパーピンを上メスの下側の溝に入れます。
- ③ ルーパーカバーと布板をしめます。

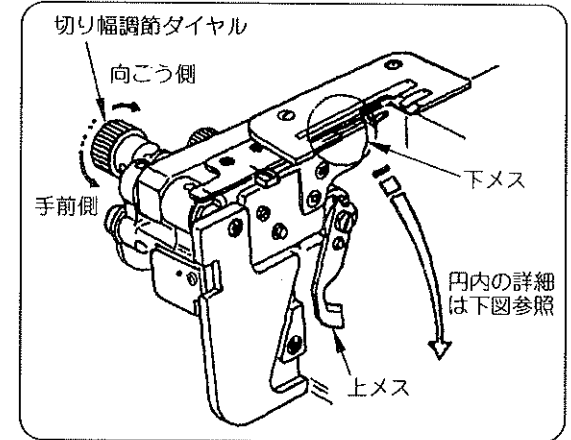


(B) 布縁が余りすぎてシワになる場合、



下メスを左へ

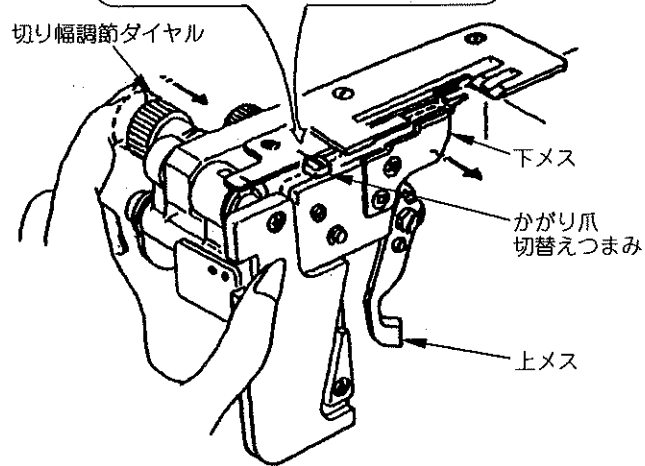
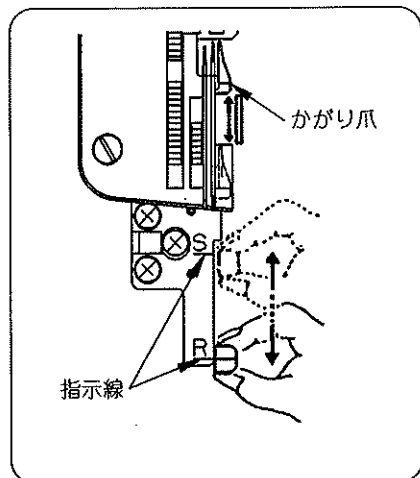
☆ 切り幅の調節



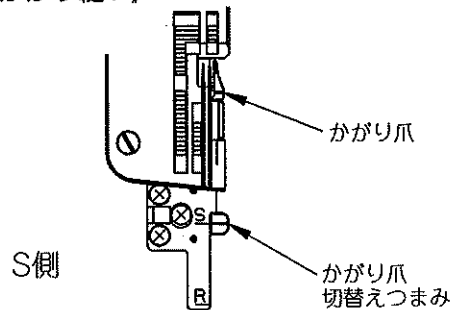
⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ① ルーパーカバーと布板をひらきます。
- ② 上メスを解除します。
- ③ (A) 布縁が縫い目にとどかない場合、切り幅調節ダイヤルを手前側へまわして下メスを右へ移動します。
(B) 布縁が余りすぎてシワになる場合、切り幅調節ダイヤルを向こう側へまわして下メスを左へ移動します。
- ④ 上メスをもどし、ルーパーカバーと布板をしめます。

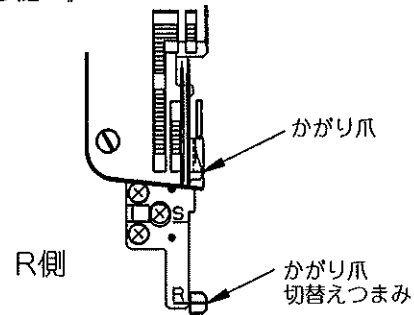
☆ ふちかがり縫いと巻き縫いの切り替え（かがり爪位置の切り替え）



〈普通のふちかがり縫い〉



〈巻き縫い〉

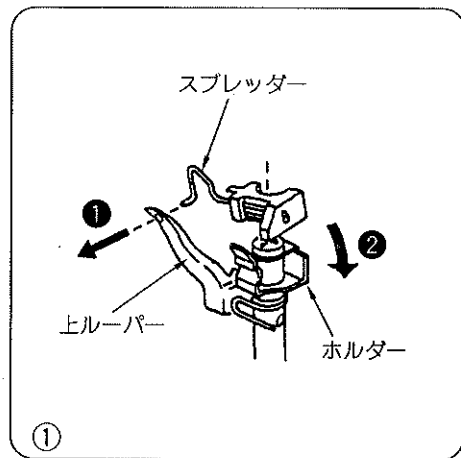


⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ① ルーパーカバーと布板をひらきます。
- ② 上メスを解除します。
- ③ 切り幅調節ダイヤルを右いっぱい押しながら、かがり爪切替えつまみを普通のふちかがり縫いの時は「S」側へ、巻き縫いの時は「R」側へ移動します。
- ④ 切り幅調節ダイヤルは手をはなせば元にもどります。
- ⑤ 上メスをもどし、ルーパーカバーと布板をしめます。

☆ 2本糸縫いへの切り替え

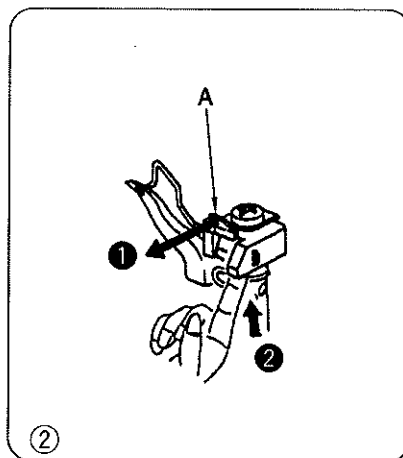
★ スプレッターのつけ方



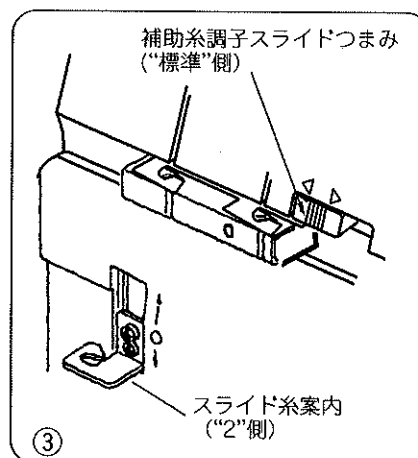
⚠ 電源スイッチを切ってください。

① 上ルーパーの穴に、スプレッターの先端を後方から入れ、スプレッターをホルダーに差し込みます。

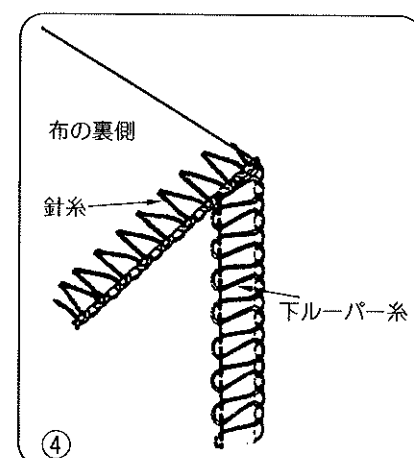
★ スプレッターのはずし方



② ホルダーのA部を、手前に軽く引きながらスプレッターの突起を押し上げて抜き取ります。

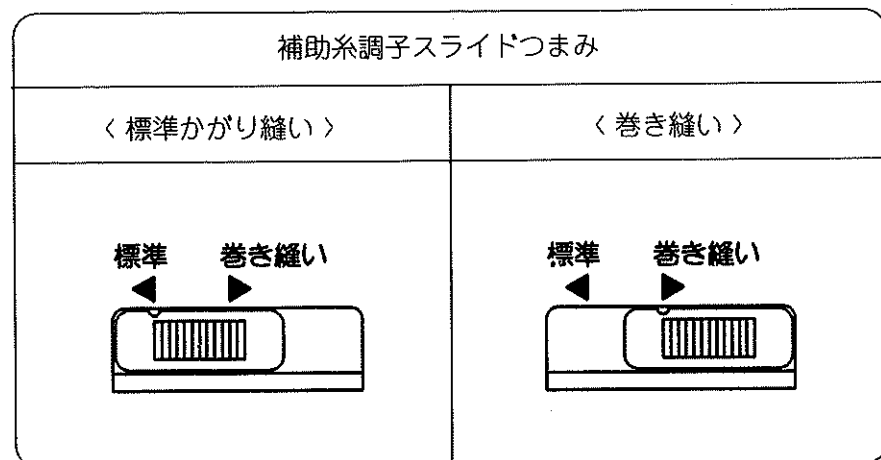


③ 2本糸ふちかがり縫いは、補助糸調子スライドつまみを“標準”に、スライド糸案内を“2”にあわせませす。

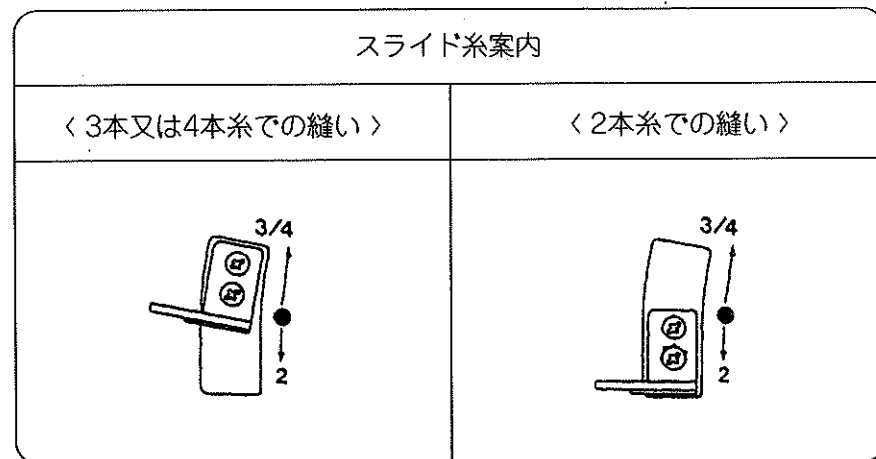


④ 2本糸ふちかがり縫いの正しい糸調子は、上の図のようになります。

☆ 補助系調子スライドつまみとスライド系案内の設定

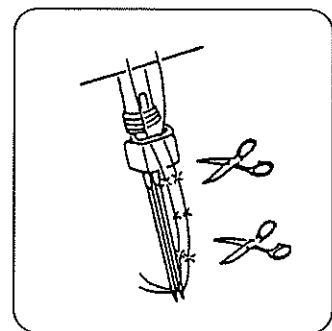
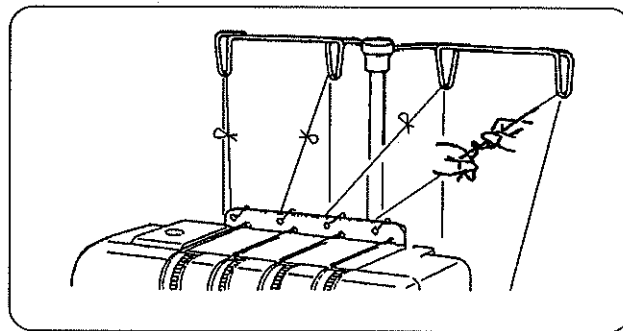
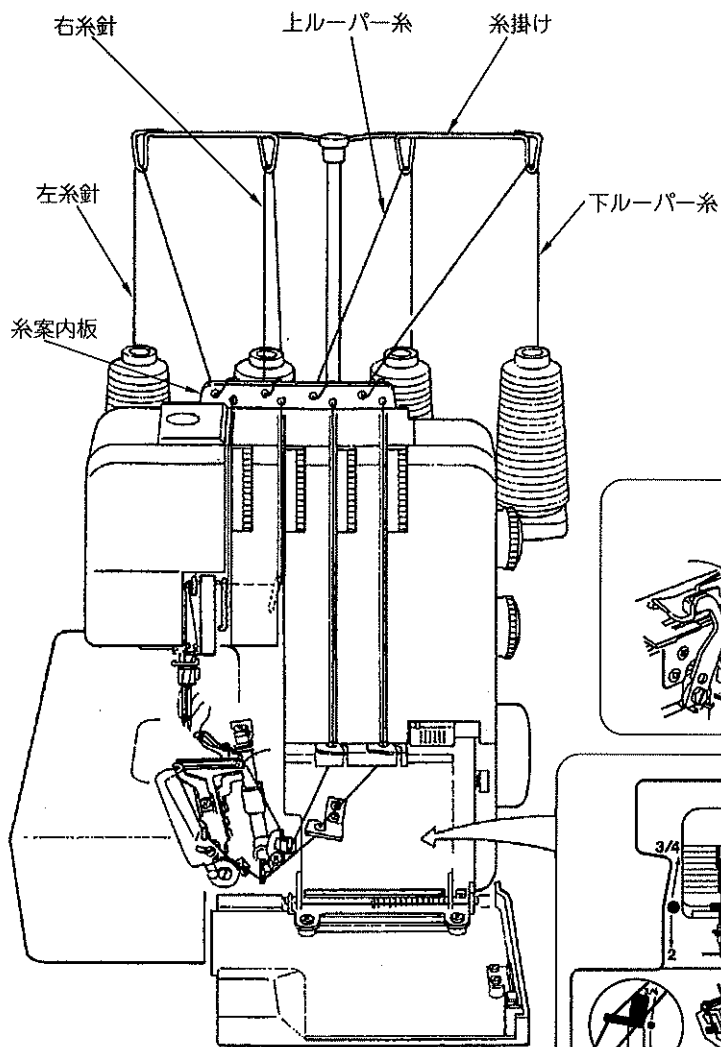


* 2本 * 3本 * 4本系全てに渡って適用されます。

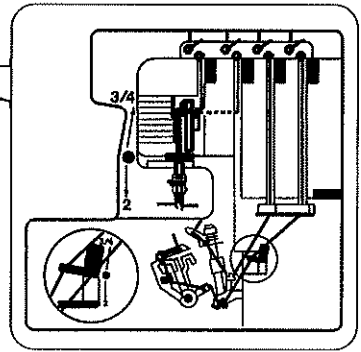
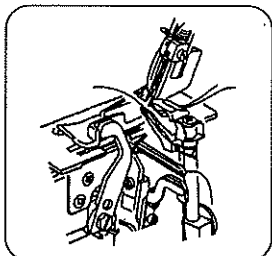


* 3本 * 4本系と、2本系によって、必ず切り替えてください。

☆糸の通し方



⚠ 電源スイッチを切ってください。



糸道案内図

このミシンは、あらかじめ糸がセットしてあります。ご使用になる糸をセットしてある糸につないで引き出すと、容易に糸が通せます。糸こまから引き出した糸を糸掛けスタンドの糸掛けに通してから、あらかじめミシンにセットしてある糸につないで、押え上げをあげ、結び目が押えの下から向こう側へ出るまで引き出します。ただし、針糸を引き出すときは、結び目を針穴の手前で止め、結び目を切ってから、針穴に糸を通してください。

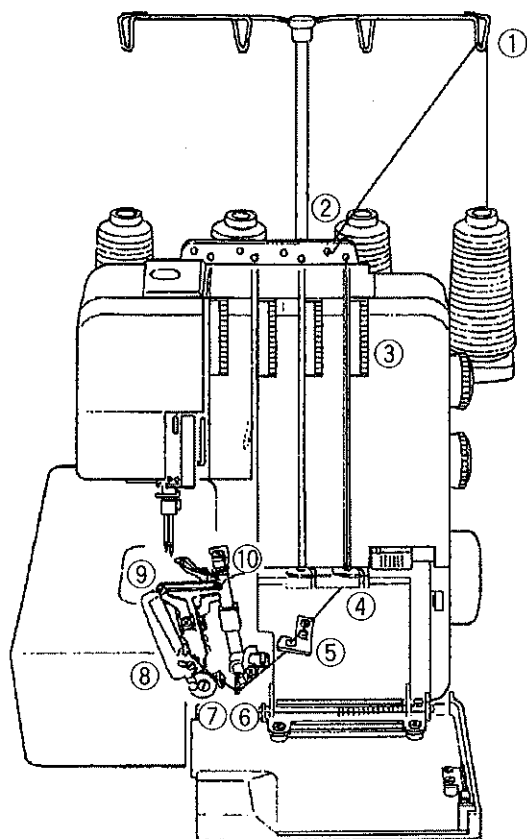
また、新たに糸を通すときは、下ルーパー、上ルーパー、右針糸、左針糸の順が通しやすいやり方です。糸の通し方をまちがえると、目飛びや、糸切れの原因となりますので、正しい順序で糸通しをしてください。

最初に糸を通したとき、又は切れた糸を通し直したときには、縫いはじめる前に次のようにして下さい。

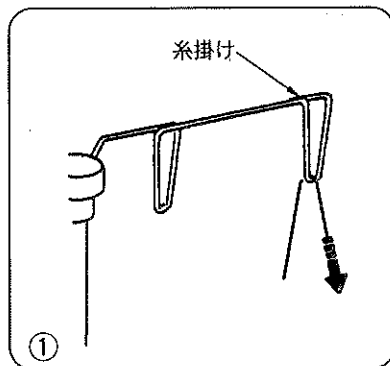
1. はずみ車を手前に回して針を最上部にあげ、上ルーパー糸の糸端を上ルーパーの糸穴から10cmほど引き出します。
2. 下ルーパー糸の糸端を下ルーパー糸穴から10cmほど引き出します。
3. 針糸を押えの下から後方へ10cmほど引き出します。

* 押えの下で針糸を後方へはらって、針糸が針板を貫通していないことを確かめてください。

★ 下ルーパー糸の通し方

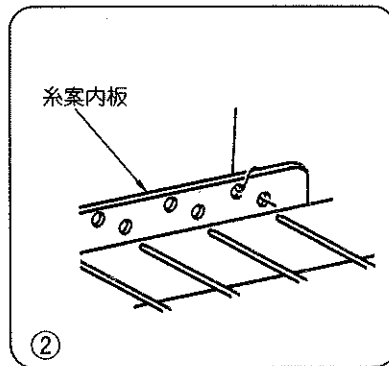


- * 緑色マークの糸道を通してください。
- * ルーパーカバーをひらきます。

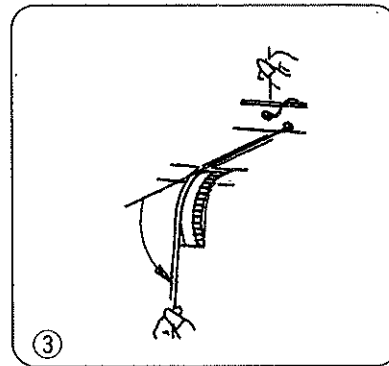


⚠ 電源スイッチを切ってください。

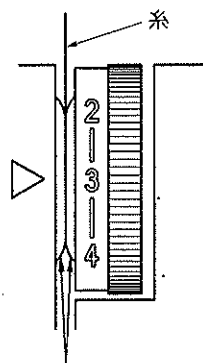
① 糸こまから引き出した糸を、いちばん右側の糸掛けに掛けます。



② 糸を糸案内板のいちばん右側の2つの穴に通します。

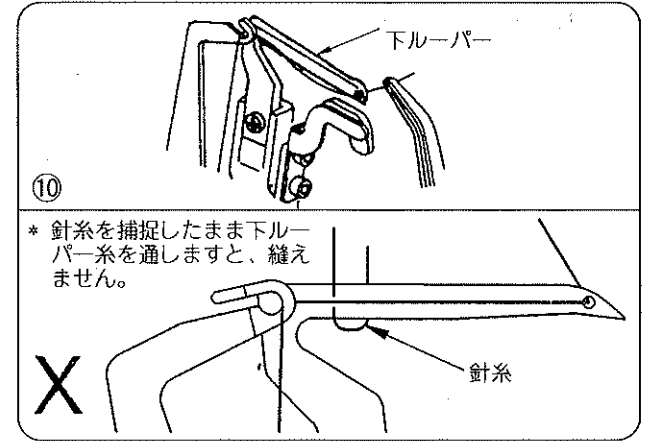
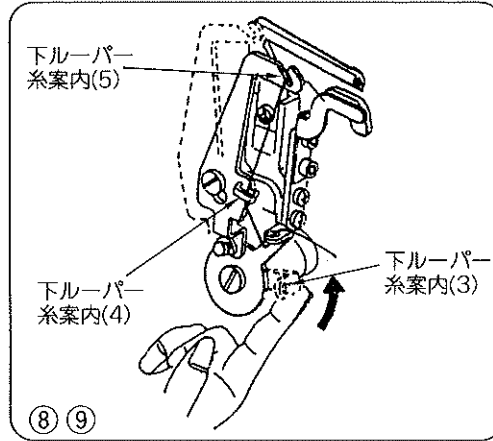
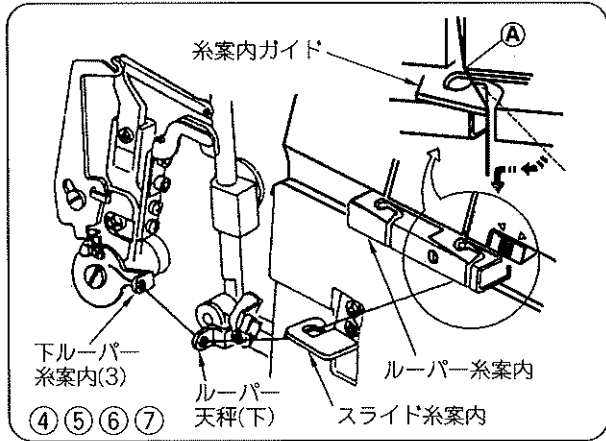


③ 溝にそって糸を引き、下ルーパー糸調子器に糸を通します。



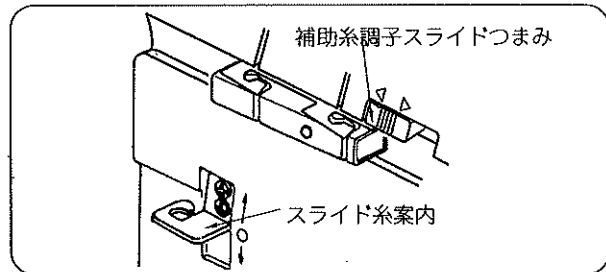
糸調子皿(両側)

- * 糸の両端をもってやさしくしごき糸が確実に糸調子皿2枚の間に入っていることを確かめてください。
- * 押え上げを上げると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。



⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ④ 糸を正面カバーの角部 A、糸案内ガイド先端の順にガイドし、ルーパー糸案内の右側溝に通します。
- ⑤ スライド糸案内に糸を通します。
- ⑥ ルーパー天秤(下)に糸を通します。
- ⑦ 下ルーパー糸案内(3)に糸を通します。

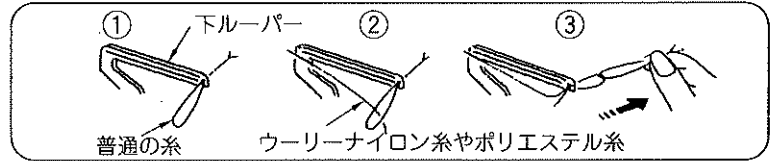


* 下ルーパー糸通しをするときは、補助糸調子スライドつまみを“標準”側に、スライド糸案内を“3/4”側にあわせておきます。

- ⑧ はずみ車を回して下ルーパーを最右点にし、指で下ルーパー糸案内(3)を軽く持ち上げると、下ルーパー糸案内(4)、(5)が、上方に現われます。
- ⑨ 下ルーパー糸案内(4)、(5)に糸を掛けます。
- * 糸の先端を持って、はずみ車を手前に回すと、下ルーパー糸案内(3)、(4)、(5)は、自動的に元の位置に戻ります。

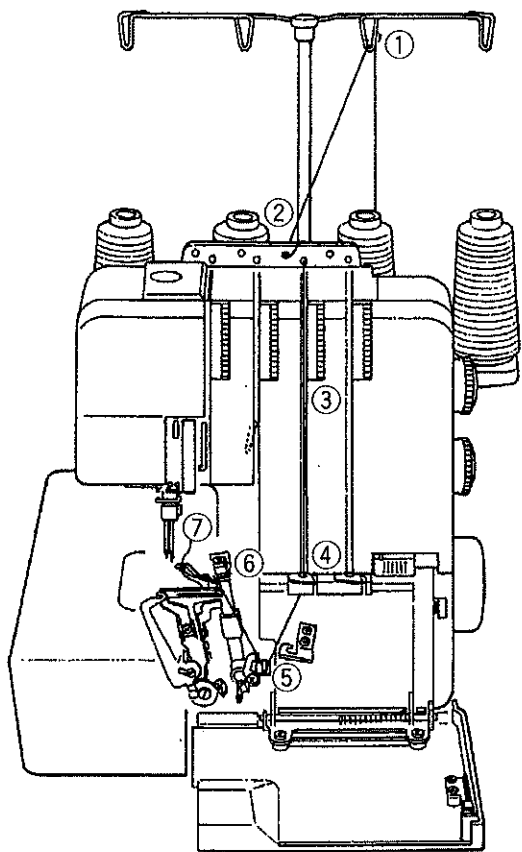
- ⑩ はずみ車を回して、再び下ルーパーを最右点にします。下ルーパー糸案内に糸を通し、糸端は、糸案内から10cmほど引き出しておきます。
- * この際、下ルーパーに捕捉された針糸は、下ルーパーからはずして、下ルーパー糸を通してください。
- ⑪ ルーパーカバーをしめます。

★ ウーリーナイロン糸やポリエステル糸の通し方

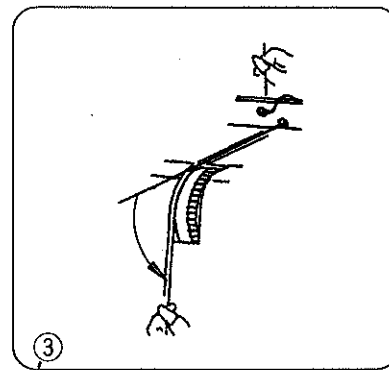
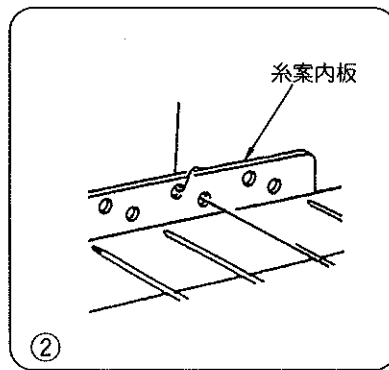
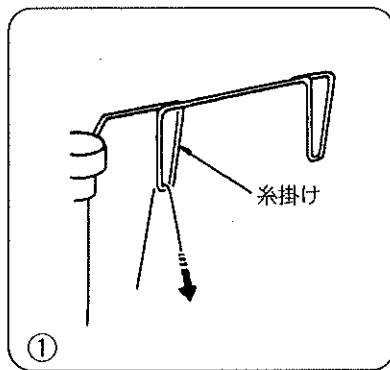


- 下ルーパーの穴に通しにくいウーリーナイロン糸やポリエステル糸などは、上図の方法で通します。
- * 上ルーパーの場合にも、同じ方法で糸通しをしてください。

★ 上ルーパー糸の通し方

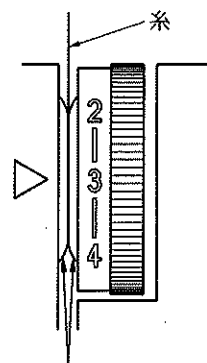


* 赤色マークの糸道を通してください。



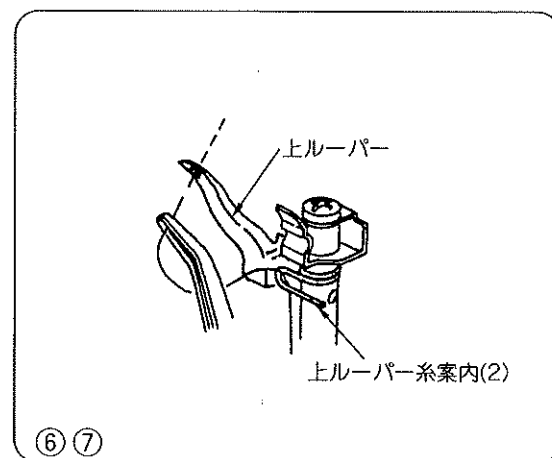
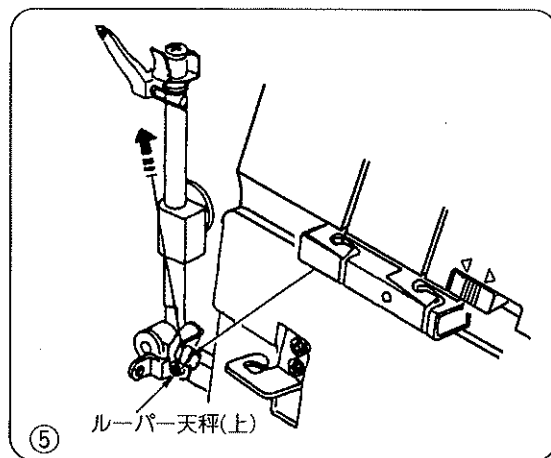
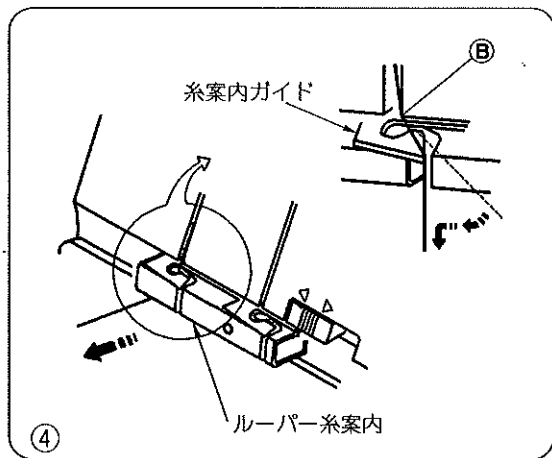
⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ① 糸こまから引き出した糸を、右から2番目の糸掛けに掛けます。
 ② 糸を糸案内板の右から2番目の2つの穴に通します。
 ③ 溝にそって糸を引き、上ルーパー糸調子器に糸を通します。



- * 糸の両端をもってやさしくしごき糸が確実に糸調子皿2枚の間に入っていることを確かめてください。
- * 押え上げを上げると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。

糸調子皿(両側)



⚠ 電源スイッチを切ってください。

④ 糸を正面カバーの角部ⓑ、糸案内ガイド先端の順にガイドし、ルーパー糸案内の左側溝に通します。

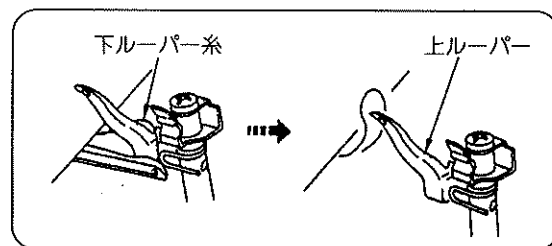
⑤ ルーパー天秤(上)の上側フック部に糸を掛けます。

⑥ ルーパー糸案内(2)のフック部に右側から左側へ糸を通します。

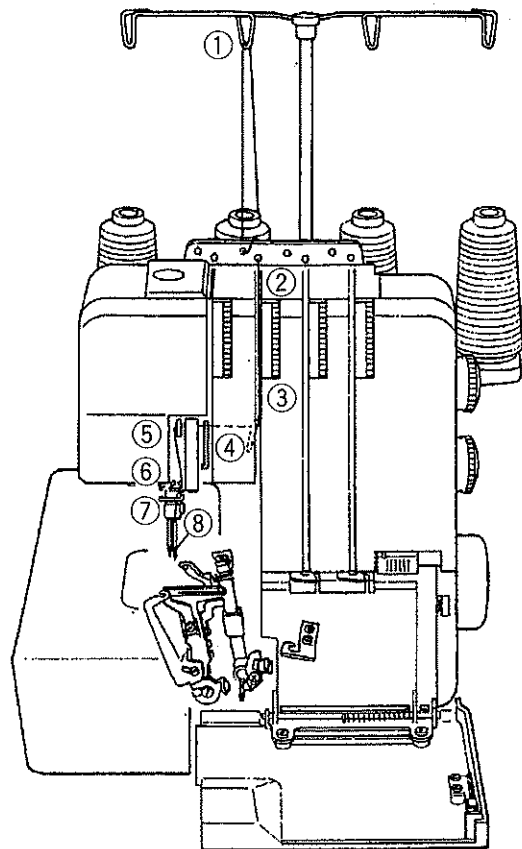
⑦ 糸の先端をピンセットでつまみ、上ルーパーの穴に通します。糸は糸穴から10cmほど引き出しておきます。

⑧ ルーパーカバーを閉めます。

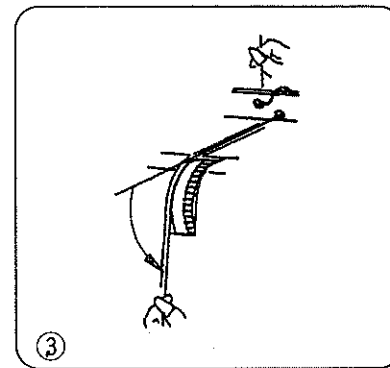
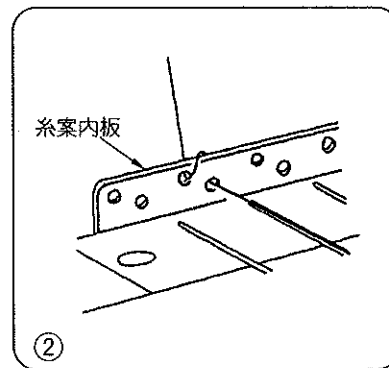
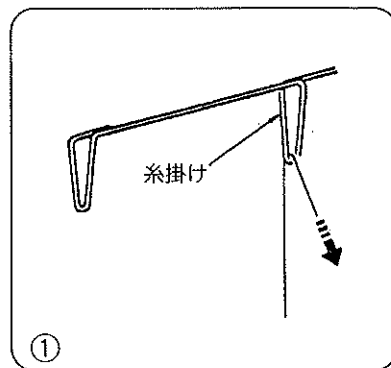
* 上ルーパー糸を通すときは、上ルーパーから下ルーパー糸をはずして通してください。



★ 右針糸の通し方



* 青色マークの糸道を通してください。

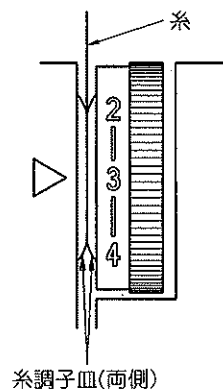


⚠ 電源スイッチを切ってください。

① 糸こまから引き出した糸を、左から2番目の糸掛けに掛けます。

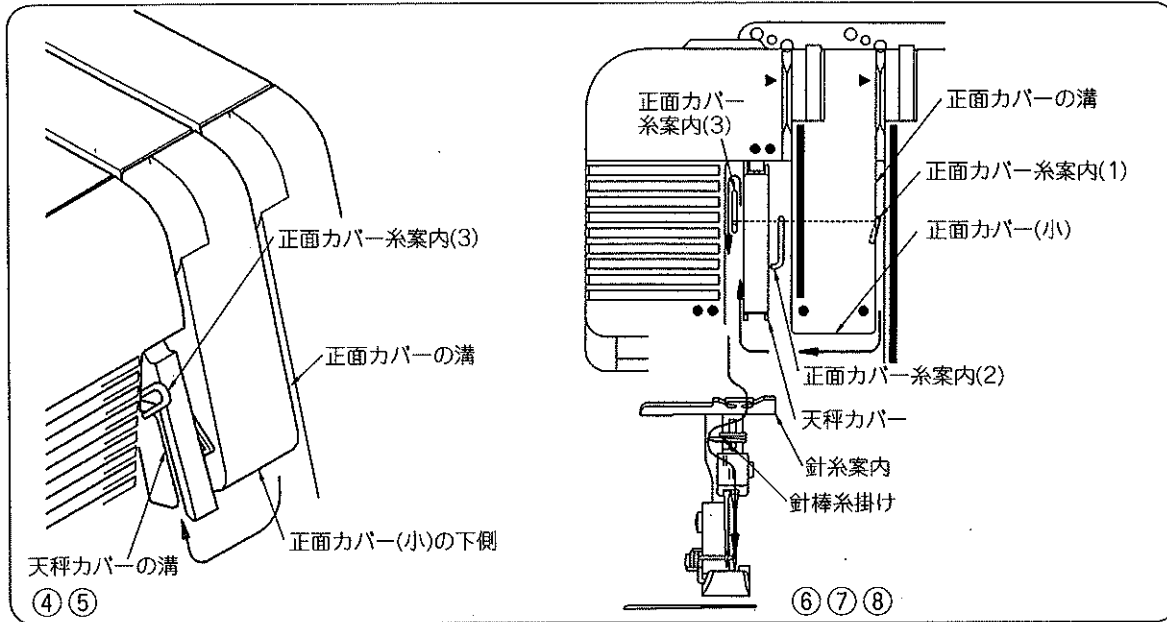
② 糸を糸案内板の左から2番目の2つの穴に通します。

③ 溝にそって糸を引き、針糸調子器(右)に糸を通します。



* 糸の両端をもってやさしくしごき糸が確実に糸調子皿2枚の間に入っていることを確かめてください。

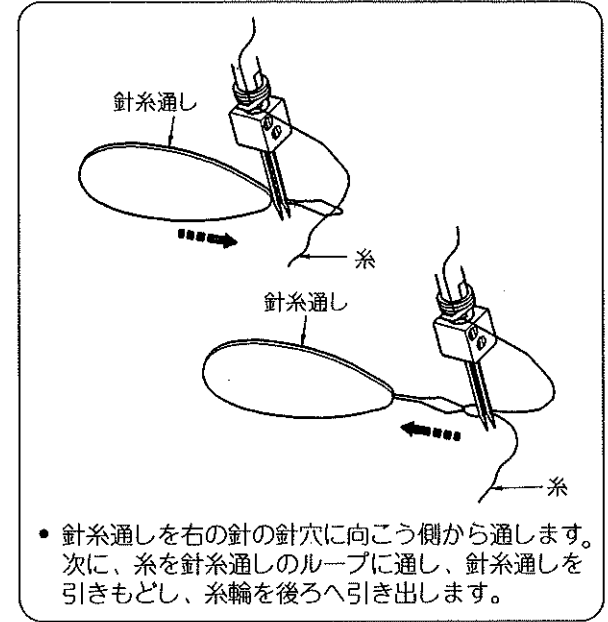
* 押え上げを上げると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。



⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ④ はずみ車を手前に回して針を最上部にあげます。
- ⑤ 糸を正面カバーの溝に沿って正面カバー(小)の下側まで引き降ろします。そのまま、糸を天秤カバーの下までまわし、天秤カバーの溝に沿って上に持ち上げ、正面カバー糸案内(3)の上側を右から左に掛けます。
こうして、図の実線で示された手順で通された糸は最終的に、正面カバー糸案内(1)から正面カバー糸案内(3)まで、図の点線のように通ります。
- ⑥ 針糸案内の右側の溝に糸を掛けます。
- ⑦ 針棒糸掛けに左側から掛けます。
- ⑧ 右針の針穴に糸を手前から通します。糸は押えの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。
- ⑨ ルーパーカバーを閉めます。

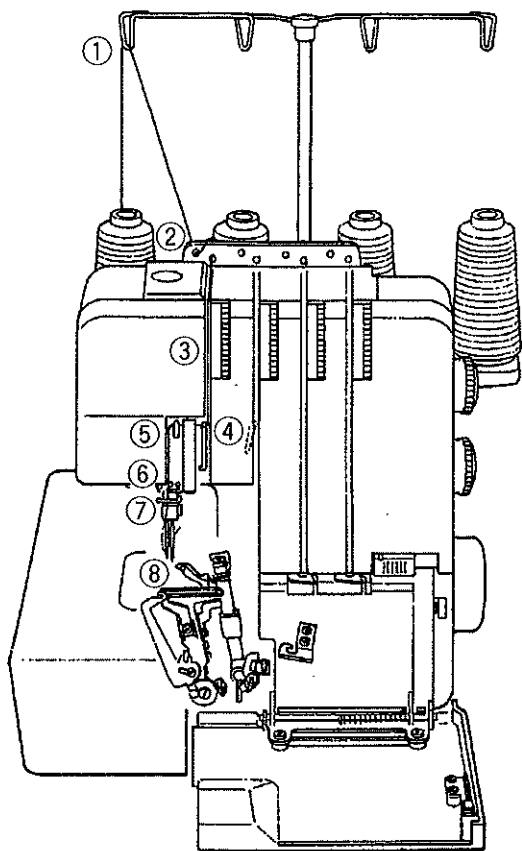
★ 針糸通しの使い方



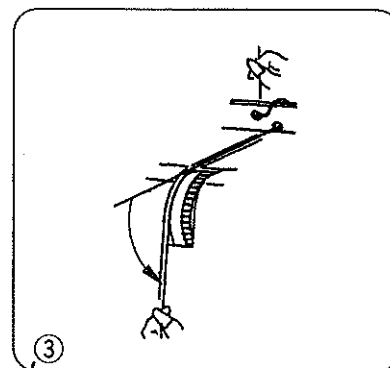
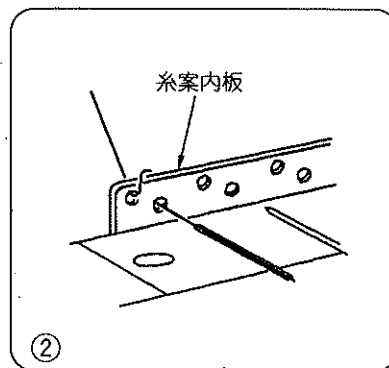
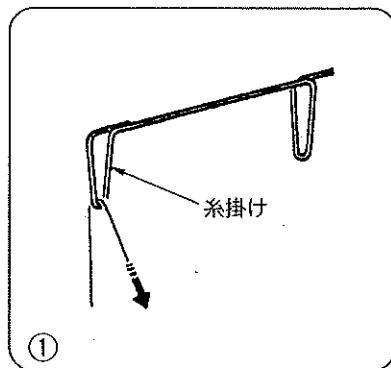
- 針糸通しを右の針の針穴に向こう側から通します。次に、糸を針糸通しのループに通し、針糸通しを引きもどし、糸輪を後ろへ引き出します。

* 針穴に糸を通すとき、付属の針糸通しをご使用になると便利です。

★ 左針糸の通し方

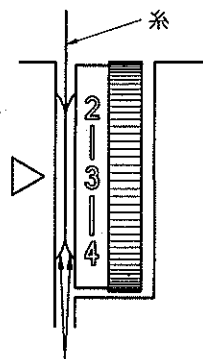


* 黄色マークの糸道を通してください。



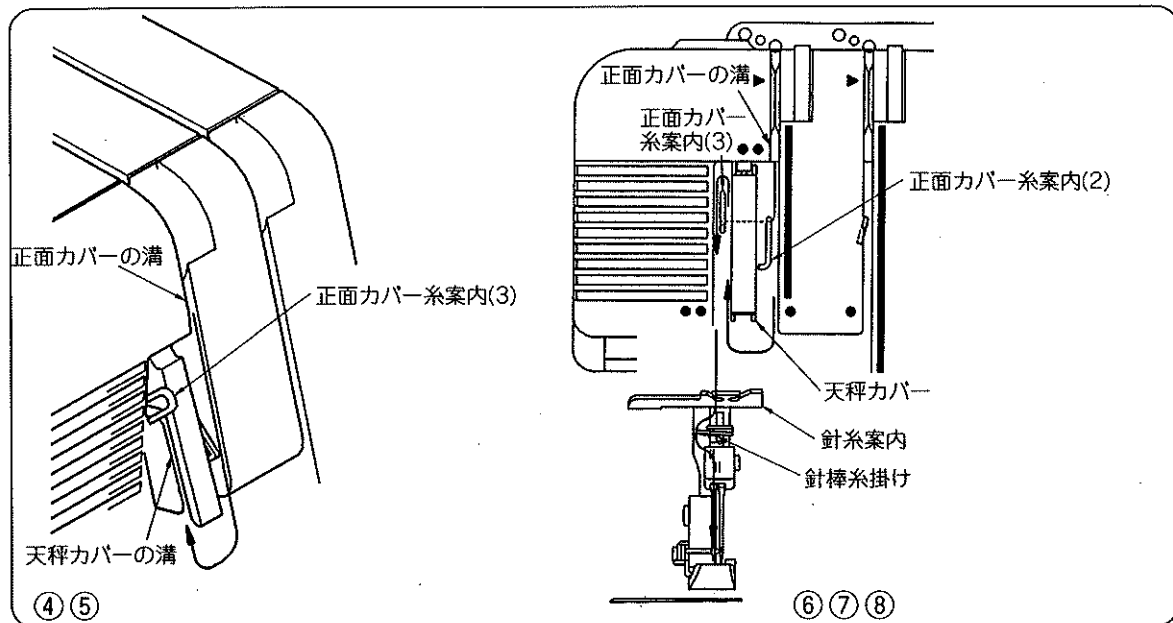
⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ① 糸こまから引き出した糸を、左の糸掛けに掛けます。
 ② 糸を糸案内板の左の2つの穴に通します。
 ③ 溝にそって糸を引き、針糸調子器(左)に糸を通します。



糸調子皿(両側)

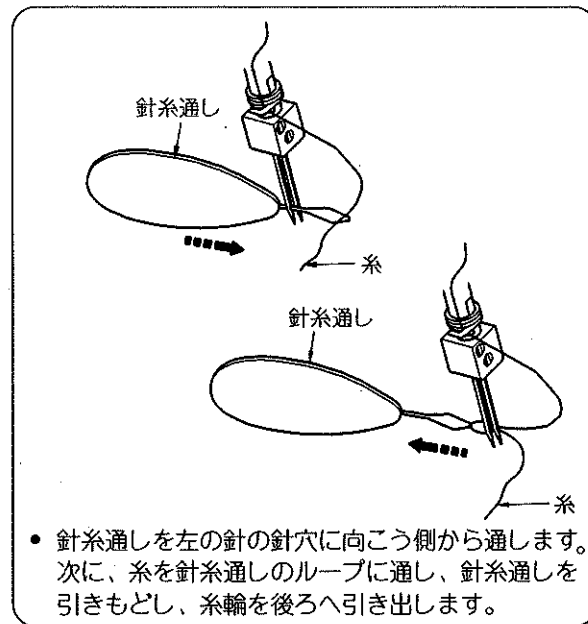
- * 糸の両端をもってやさしくしごき糸が確実に糸調子皿2枚の間に入っていることを確かめてください。
- * 押え上げを上げると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。



⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ④ はずみ車を手前に回して針を最上部にあげます。
- ⑤ 糸を正面カバーの溝に沿って正面カバー糸案内(2)の下側まで引き降ろします。そのまま、糸を天秤カバーの下までまわし、天秤カバーの溝に沿って上に持ち上げ、正面カバー糸案内(3)の上側を右から左に掛けます。
こうして、図の実線で示された手順で通された糸は最終的に、正面カバー糸案内(2)から正面カバー糸案内(3)まで、図の点線のように通ります。
- ⑥ 針糸案内の左側の溝に糸を掛けます。
- ⑦ 針棒糸掛けに左側から掛けます。
- ⑧ 左針の針穴に糸を手前から通します。糸は押えの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。
- ⑨ ルーパーカバーを閉めます。

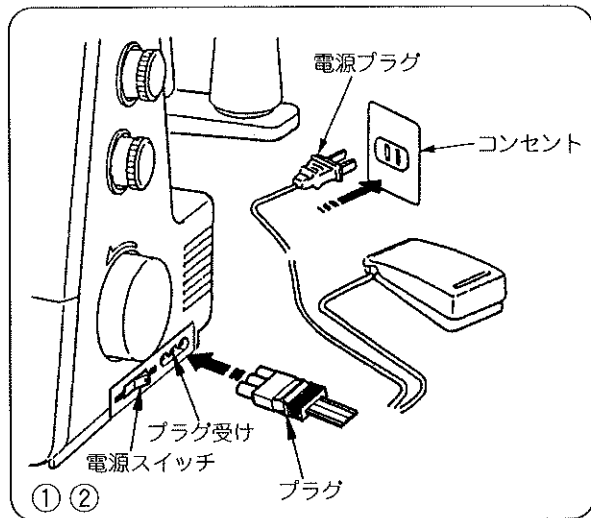
★ 針糸通しの使い方



- 針糸通しを左の針の針穴に向こう側から通します。次に、糸を針糸通しのループに通し、針糸通しを引きもどし、糸輪を後ろへ引き出します。

* 針穴に糸を通すとき、付属の針糸通しをご使用になると便利です。

☆ 電源をつなぎましょう

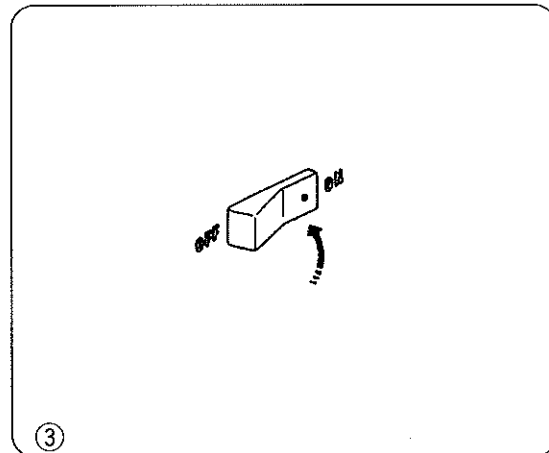


- ① 電源スイッチを「OFF」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。
- ② 電源プラグをコンセントにさしこみます。

⚠ ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

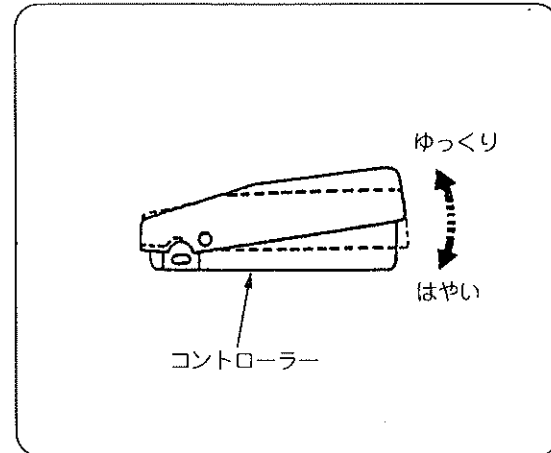
⚠ 電源プラグやプラグをコンセントから抜く時は、コードを引っ張らないでください。

⚠ 一般家庭用交流電源 (100V50/60Hz) でご使用ください。



- ③ 電源スイッチを「ON」にします。

☆ 速さの調節の仕方



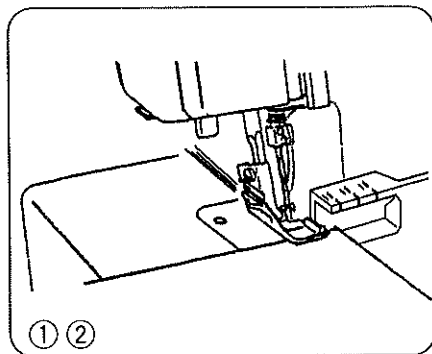
ミシンの速さは、コントローラーで調節します。

* コントローラーは、深く踏み込むほど、速くなります。

⚠ コントローラーの上に、物を乗せないでください。

☆ 試し縫いをしましょう

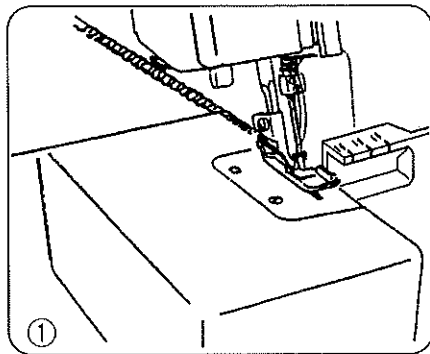
★ 縫いはじめ



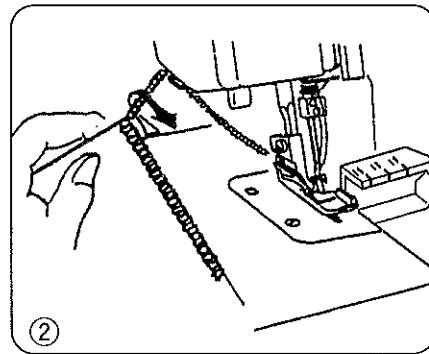
- ① 押え上げを下げます。
- ② 4本の糸を押えの下から向こう側に引きそろえて、ゆっくり縫いはじめ、5~6cmカラ縫いをします。
カラ縫いした糸のからみぐあいを確かめてから、布をセットして縫いはじめます（押えをあげる必要はありません）。布は自動的に送られますから、手は、縫いたいと思う方向に布を導くだけにご覧ください。

* カラ縫いは布を縫わずに糸だけでカラ環（糸がらみ）を作ることを行います。

★ 縫いおわり

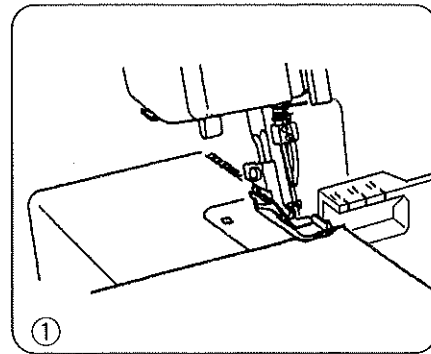


- ① 布端まで縫い終わったらそのまま、低速にして約12~13cmカラ縫いをします。



- ② カラ縫いをした糸を布の端より5~6cm残し、糸切りか、はさみで切ります。

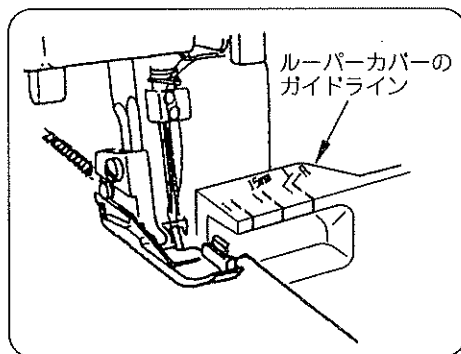
★ つづけて縫うとき



- ① 押え上げをあげずに、つぎの布地を押えの下に差し込むようにして縫います。

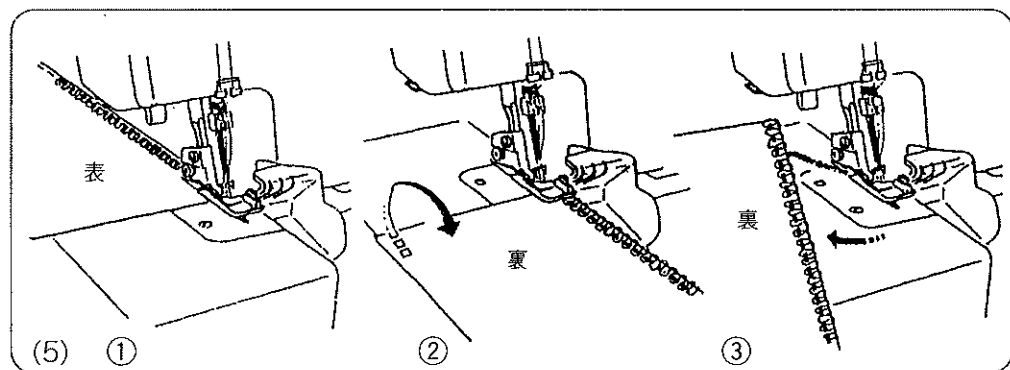
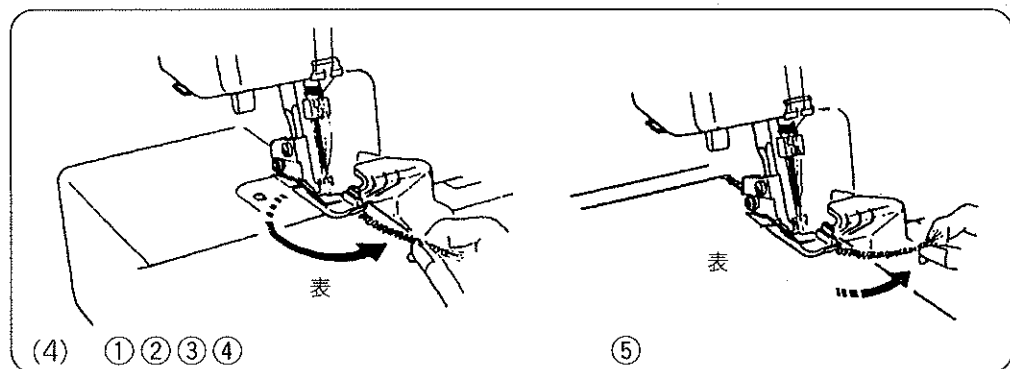
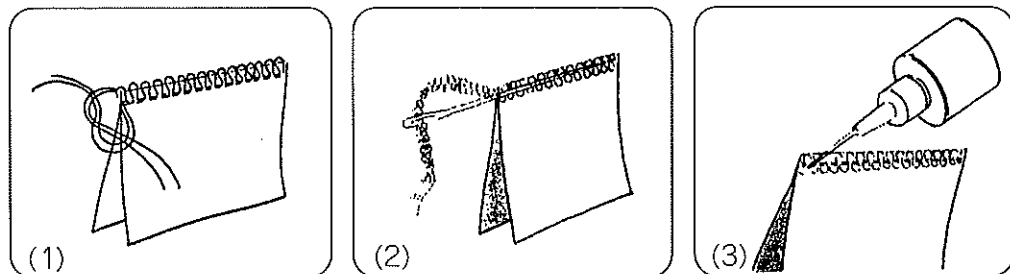
* 厚い布を縫うときは、押え上げをあげ、布地を上メスの手前まで差し入れ、押え上げをさげて縫います。

★ ガイドラインの使い方



ルーパーカバーの上部には、針落ちからの距離を示すガイドラインが用意されています。布縁から、縫い目までの目安としてお使いください。3本ある刻み線は6mm間隔となっており、中央は針落ちから15mmです。それぞれの刻み線は、実線が右針、点線が左針からの距離を表しています。

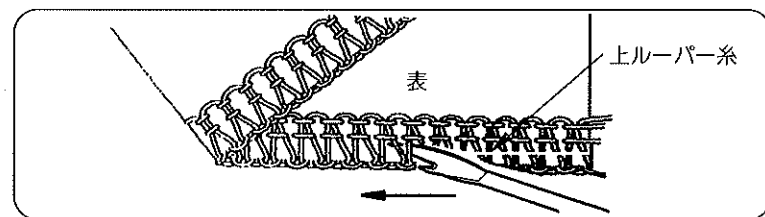
☆ 縫いはじめ、縫いおわりの糸の始末、縫い目のほどこき方



★ 縫いはじめ、縫いおわりの糸をそのままにしておくとはつれてしまいます。縫いはじめ、縫いおわりの糸の始末には色々な方法がありますので、お好みの方法をお選びください。

- (1) 5cm位カラ縫い糸をほどこき、その糸を使って布端で結び目を作る方法。
- (2) カラ縫い糸をトジ針で縫い目の中に入れる方法。
- (3) 布端のカラ縫い糸の根元に手芸用ボンドを少し付け乾燥してから余分な糸を切り落とす方法。
- (4) ロックミシンで縫いはじめを始末する方法。
 - ① カラ縫い糸を5cm位出しておきます。
 - ② 布地を入れ、2~3針だけ縫います。
 - ③ ミシンを止め、押えをあげます。
 - ④ カラ縫い糸を左から押えの下へ入れ、軽く手前に引きながら、押えを下げ、布といっしょに縫い込みます。
 - ⑤ 余分なカラ縫い糸は右に案内してメスで切り落とします。
- (5) ロックミシンで縫いおわりを始末する方法
 - ① 布地の終わりの所でミシンを止めます。
 - ② 針と押えを上げ、布地をかがり爪からはずして裏返します。かがり幅を合わせて針を落とし、押えをさげます。
 - ③ 今まで縫った所がメスに当たらないように2~3cm縫いながら横方向に布地をはずします。

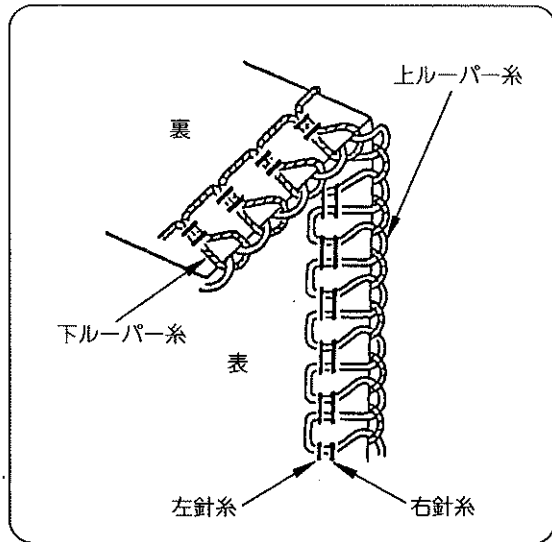
★ 縫い目のほどこき方



- * 上ルーパー糸をすべて市販のリッパーなどで切断しますと、簡単に縫い目がほどこけます。
- * 上ルーパー糸を切る時、布地を痛めない様に注意してください。

☆ 糸調子の出し方 (2本針4本糸)

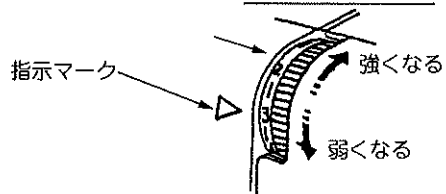
★ 正しい糸調子



- 針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の各糸調子は、糸調子器の目盛「3」を基準にしています。
- 糸調子は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがあります。
- 縫い目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

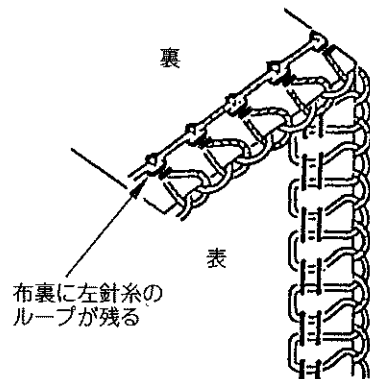
* 最初に針糸から調節してください。

糸調子ダイヤル

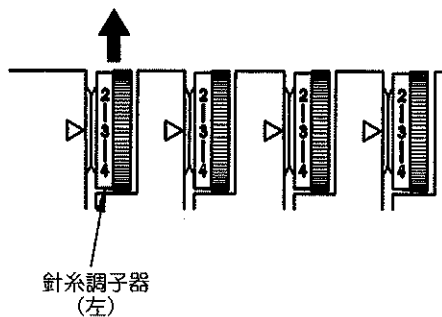


★ 糸調子の調節のし方

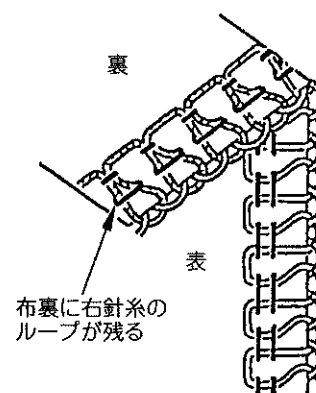
《左針糸が弱いとき》



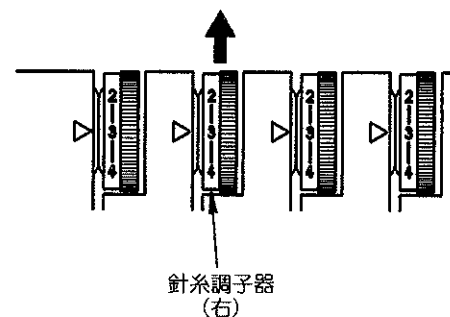
針糸調子 (左) を強くします。



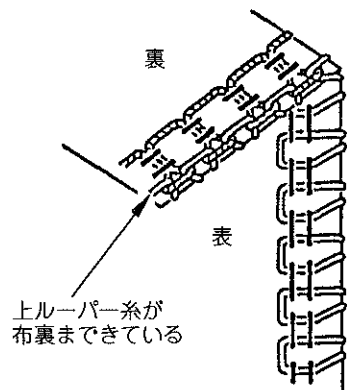
《右針糸が弱いとき》



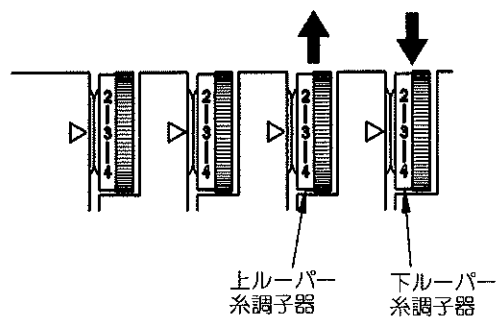
針糸調子 (右) を強くします。



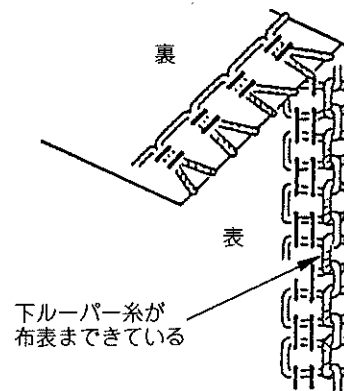
〈下ルーパー糸が強い、上ルーパー糸が弱いとき〉



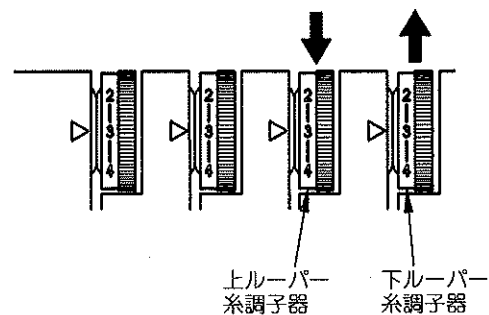
下ルーパー糸調子を弱くする、または上ルーパー糸調子を強くする



〈下ルーパー糸が弱い、上ルーパー糸が強いとき〉

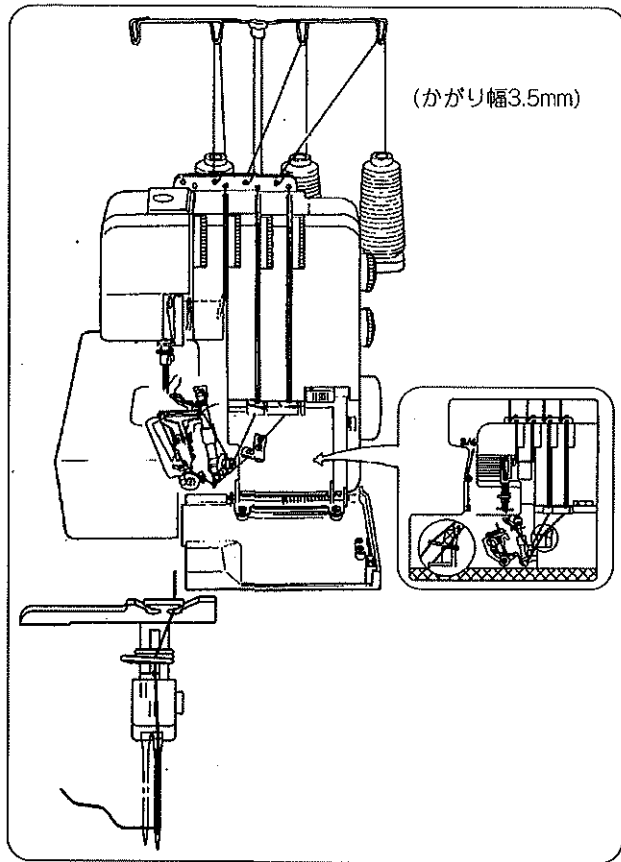


下ルーパー糸調子を強くする、または上ルーパー糸調子を弱くする

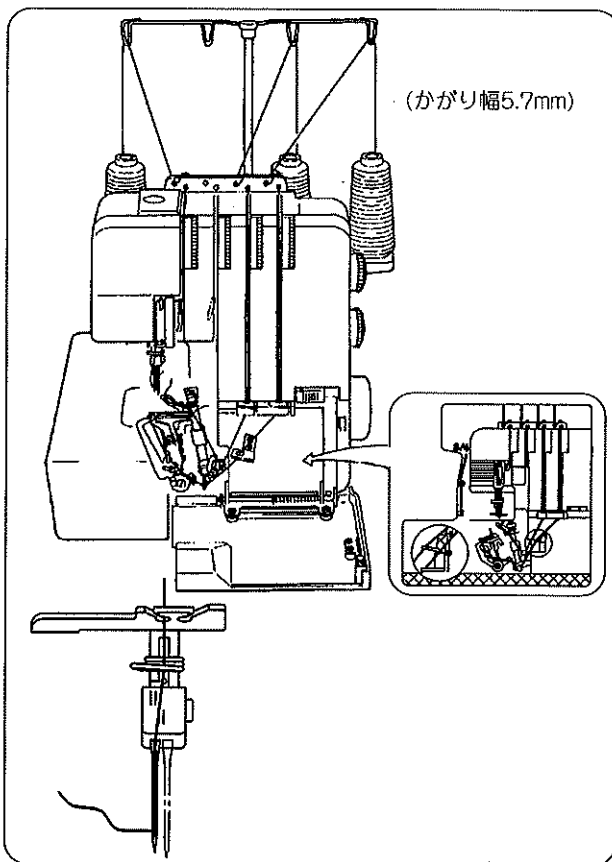


☆ 糸調子の出し方 (1本針3本糸)

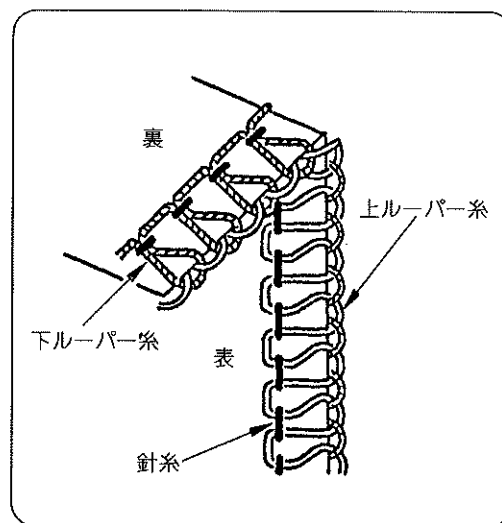
★ 右針を使うとき



★ 左針を使うとき



★ 正しい糸調子



- 針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の各糸調子は、糸調子器の目盛「3」を基準にしています。
- 糸調子は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがあります。
- 縫い目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

* 最初に針糸から調節してください。

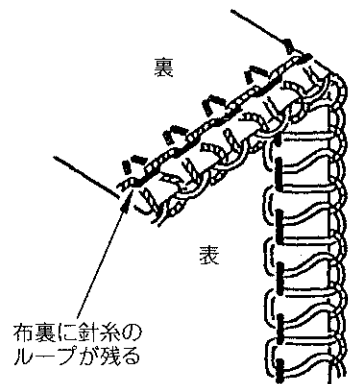
⚠ 電源スイッチを切ってください。

左側の針止めねじをゆるめて左針をはずします。
ゆるめた針止めねじがはずれないように、軽くしめておきます。

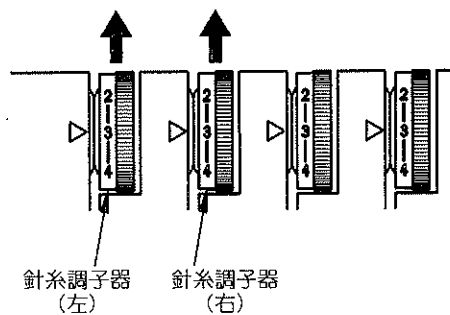
右側の針止めねじをゆるめて右針をはずします。
ゆるめた針止めねじがはずれないように、軽くしめておきます。

★ 糸調子の調節のし方

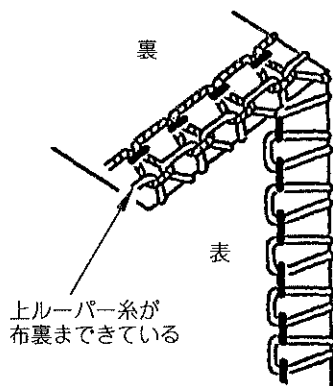
《針糸が弱いとき》



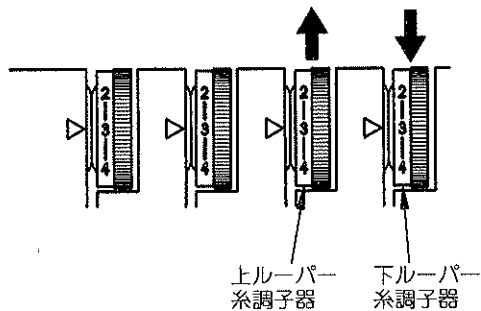
使用している側の針糸調子を強くする



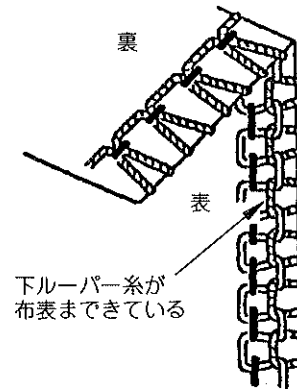
《下ルーパー糸が強いが、上ルーパー糸が弱いとき》



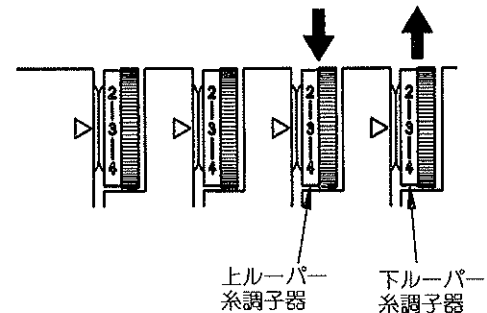
下ルーパー糸調子を弱くする、または上ルーパー糸調子を強くする



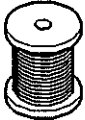

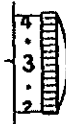
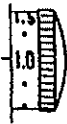
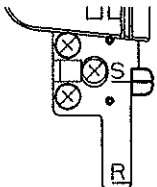
《下ルーパー糸が弱いが、上ルーパー糸が強いとき》



下ルーパー糸調子を強くする、または上ルーパー糸調子を弱くする

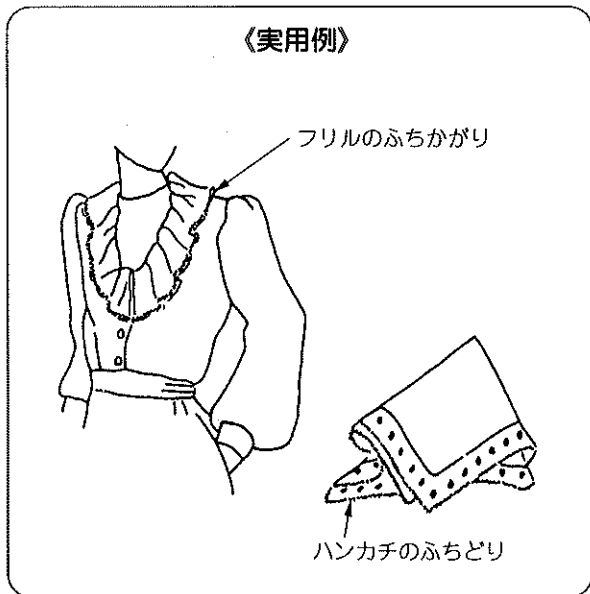


☆ 布に適した糸や針を選ぶ目安 (ふちかがり縫いと合わせ縫い)

布の種類		糸 	針 	送り調節ダイヤル 	縫い目伸縮ダイヤル 	かがり爪切替え つまみのセット 位置
うすい布	裏地、ジョーゼット、 ローン、クレープデシン オーガンジー	化繊糸 #80~100	HA-1SP #14	2.0~3.0mm	0.5~1.0	 S側
普通の布	木綿地、リンネル、 サテン	化繊糸 #60~100	HA-1SP #14	2.5~3.5mm	1.0	
厚い布	ツイード、キルティング、 デニム、ギャバジン	化繊糸 #50~60	HA-1SP #14	3.0~5.0mm	1.0	
ニット地	メリヤス、編地	化繊糸 #60~90 ウーリーナイロン糸 (ルーパー糸用)	HA-1SP #14	2.5~3.5mm	1.0~2.25	

* 糸調子の目安は糸調子の出し方 (2本針4本糸)、糸調子の出し方 (1本針3本糸) をご覧ください。

☆巻き縫い、ピコ縫い、細ロック縫い



★ ミシンのセット

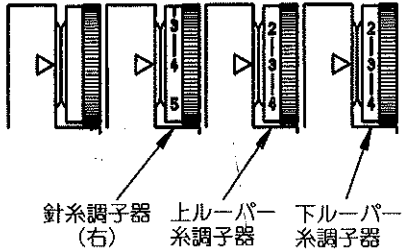
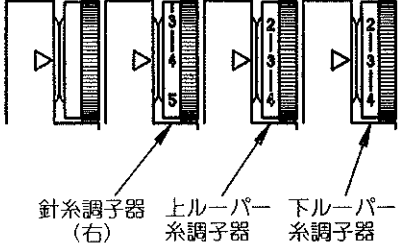
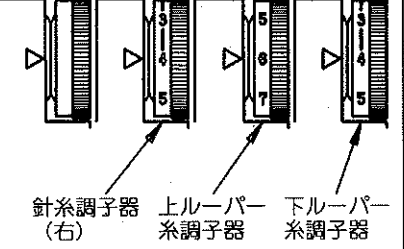
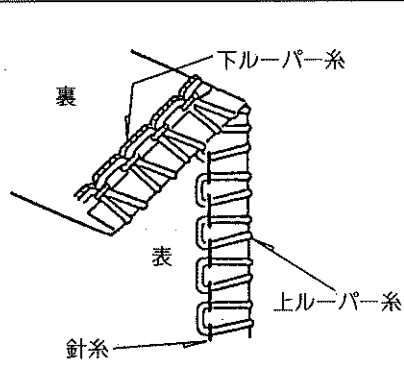
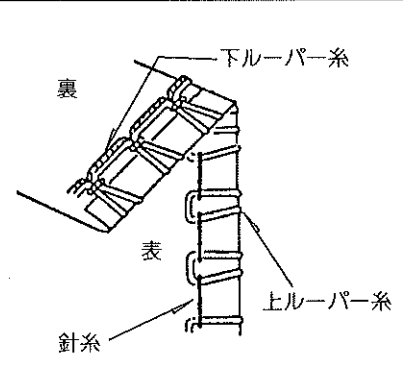
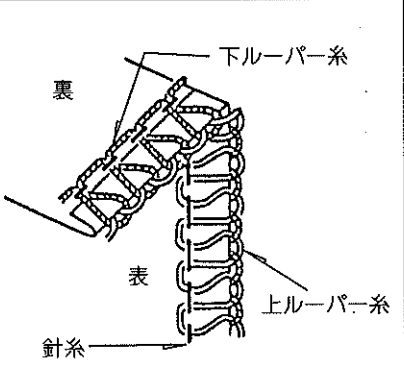
	巻き縫い	ピコ縫い	細ロック縫い
送り調節ダイヤル	R	3~4	R
縫い目伸縮ダイヤル	1.0	1.0	1.0
使用針	右針HA-1SP # 11 (左側の針は外してください)		
かがり爪切替えつまみのセット位置			
補助糸調子スライドつまみのセット位置	標準 ← 巻き縫い →	標準 ← 巻き縫い →	標準 ← 巻き縫い →

⚠ 針をはずすときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

⚠ かがり爪切替えつまみをセットするときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

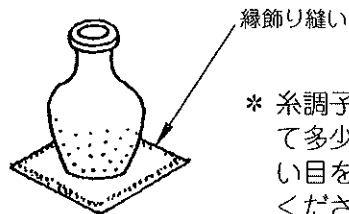
☆ 布と糸の種類と糸調子の目安

* 糸調子は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがあります。縫い目を見ながら各糸調子器で調節してください。

		巻き縫い	ピコ縫い	細ロック縫い
<p>うすい布</p> <p>オーガンジー クレープデシン ローン ジョーゼット</p>	針糸(右)		化繊糸 #80~100	
	上ルーパー糸 下ルーパー糸	ウーリーナイロン糸	化繊糸 #60~100	ウーリーナイロン糸
	糸調子の目安	 <p>針糸調子器(右) 上ルーパー糸調子器 下ルーパー糸調子器</p>	 <p>針糸調子器(右) 上ルーパー糸調子器 下ルーパー糸調子器</p>	 <p>針糸調子器(右) 上ルーパー糸調子器 下ルーパー糸調子器</p>
正しい糸調子				

☆ 縁飾り縫い

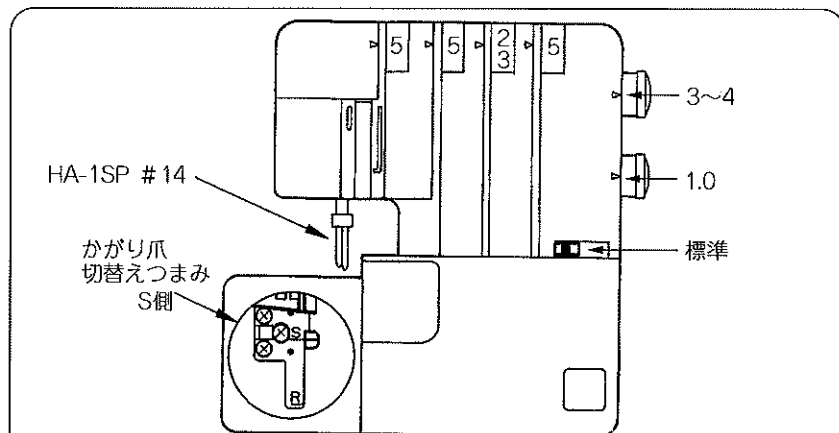
《実用例》



* 糸調子は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがあります。縫い目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

★ ミシンのセット

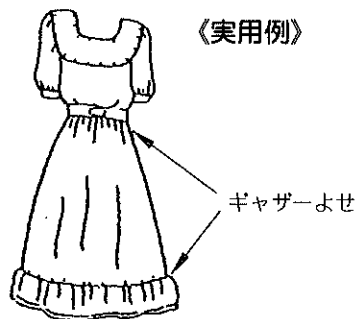
布	使用糸	
普通の布	針糸 (右、左)	化繊糸 #60~80
厚い布	上ルーパー糸	飾り糸、極細毛糸
	下ルーパー糸	化繊糸 #60~100



太い糸を使用するとき、縫い始めと縫い終わりは、カラ縫いした糸を軽く向こう側へ引きながら縫うときれいに仕上がります。

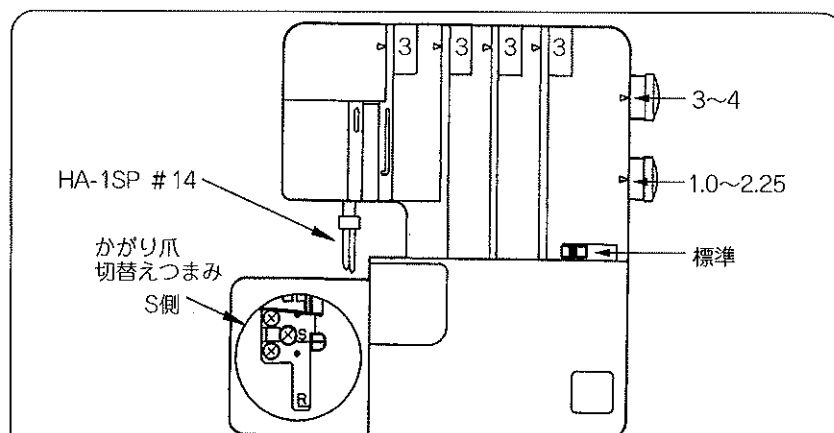
☆ ギャザーよせ

《実用例》



★ ミシンのセット

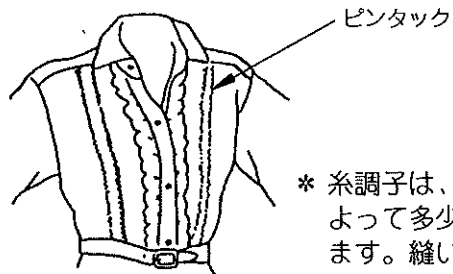
布	使用糸	
普通の布	針糸 (右、左)	化繊糸 #60~80
うすい布	上ルーパー糸 下ルーパー糸	化繊糸 #60~80



二枚の布の、一方だけにギャザーをよせるときは、別売りのギャザリング・アタッチメントをお使いください。

☆ピンタック

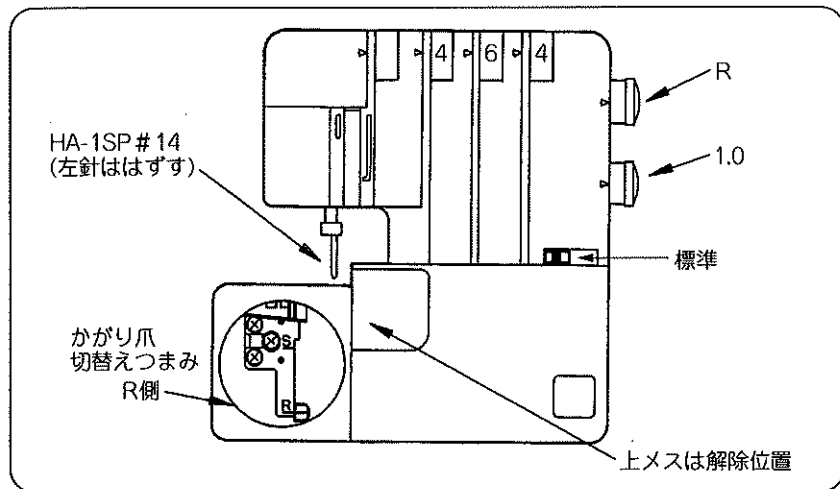
《実用例》



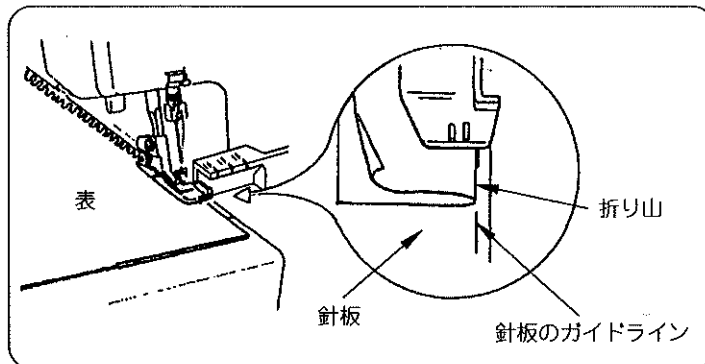
* 糸調子は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがあります。縫い目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

★ ミシンのセット

布	使用糸	
うすい布 ニット地	針糸 (右)	化繊糸 #60~80
	上ルーパー糸 下ルーパー糸	化繊糸 #60~100

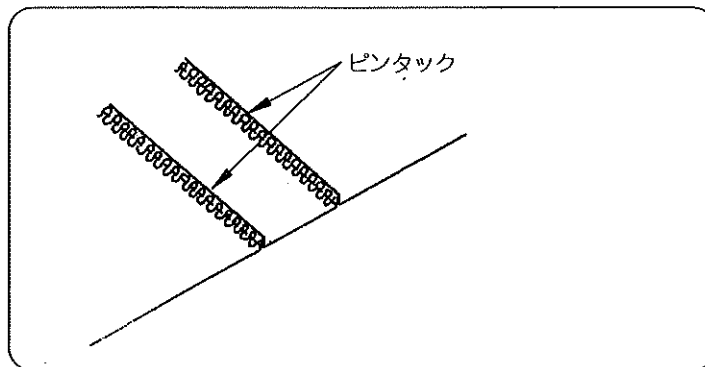


★ 縫い方



⚠ 電源スイッチを切ってください。

左側の針をはずしてください。(3本糸で縫います。) 上メスを解除します。電源スイッチを入れ折り山がガイドラインにそうようにして縫います。

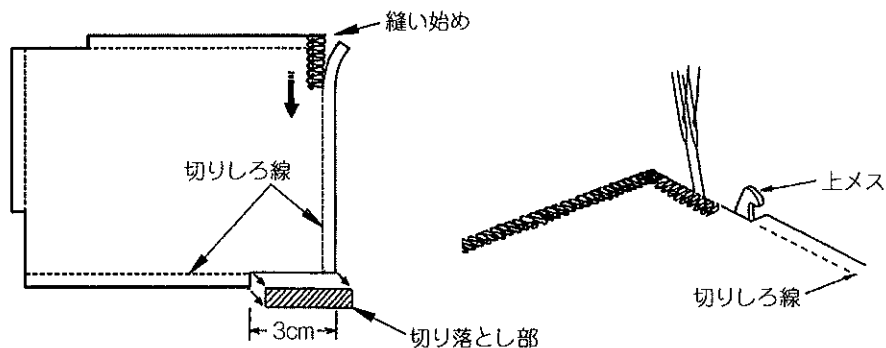


布をひらいて、アイロンで山を片側に倒します。

* 作業が終わったら、上メスをもとにもどしておいてください。

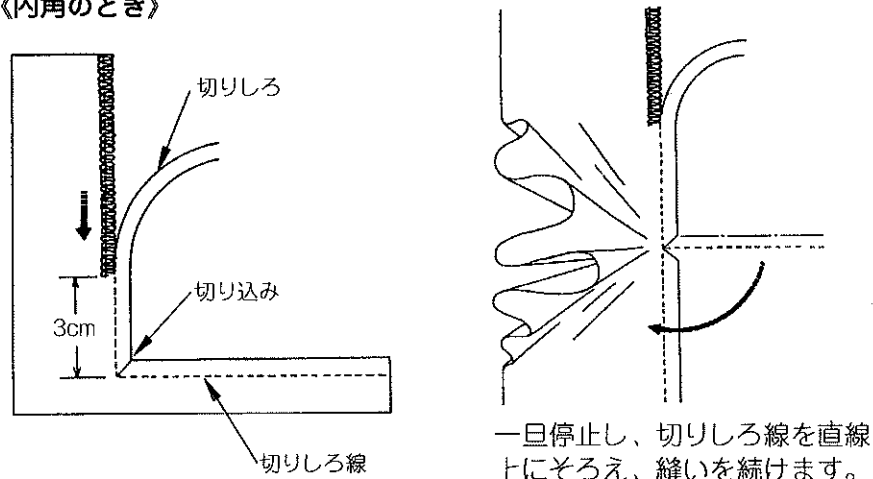
☆ コーナー部の上手な縫い方

《外角のとき》



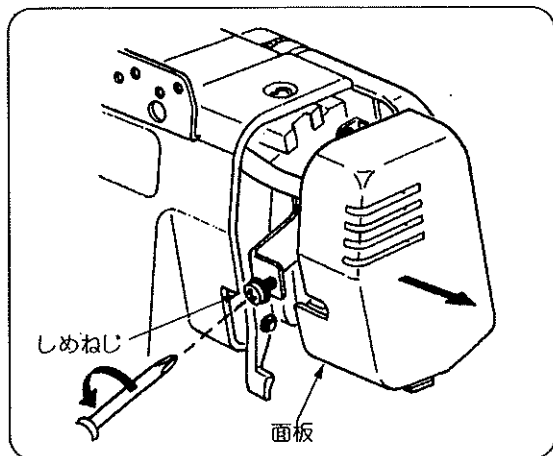
- ① 四すみのうち、縫いはじめ部をのぞく角を図のように切りしろ線にそって約3cm切り落とします。
- ② 縫いはじめ部から次の角まで縫い終わったとき、ミシンを停止し、針と押えをあげ、ゆっくりと布を回して切りしろ線に上メスを当てるようにセットします。
- ③ 押えを下げます。
- ④ コーナー部で縫い目が重なるように縫いを続けます。

《内角のとき》



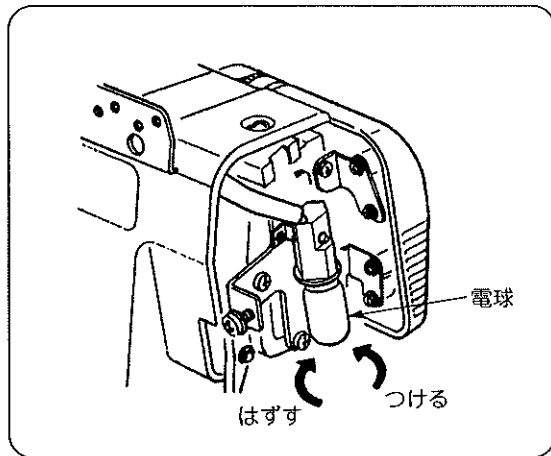
- ① あらかじめコーナー部に切り込みを入れます。
- ② コーナー部に向かって縫い進み、切り込みの約3cm手前でミシンを一旦とめます。
- ③ 次に縫われる切りしろ線を直線上にそろえ、押えの下側へ送り込みます。
- ④ そのまま縫い進みますと、内角の縫いがきれいに仕上がります。

☆ 電球のとりかえ方



⚠ 電源スイッチを切ってください。

① しめねじをゆるめ、面板をはずします。



② 電球をはずすとき・・・左に回します。
電球をつけるとき・・・右に回します。

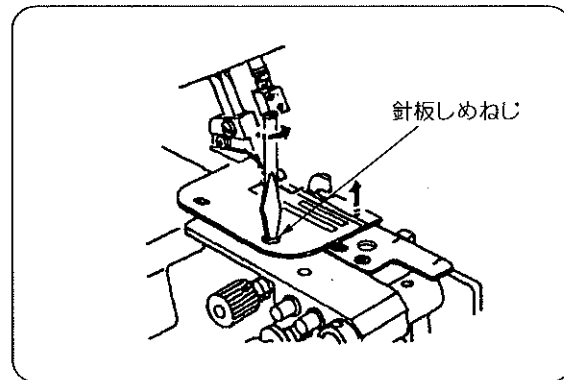
③ 電球をとりかえおわったら、面板をとりつけます。

⚠ 電球をとりかえるときは、電球が冷えていることを確認してください。

⚠ 電球を外した状態でミシンを使用しないでください。

* このミシンの電球は照明用100V-12Wを使用してください。

☆ 送り歯の掃除

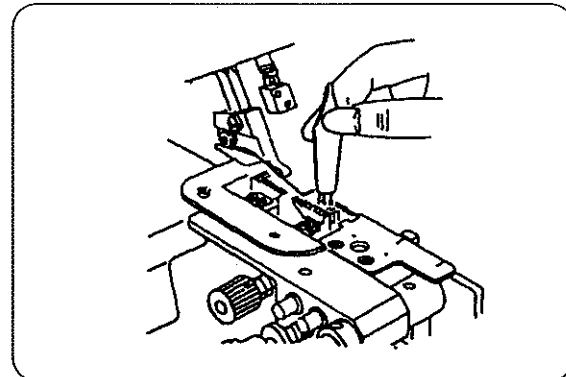


⚠ 電源スイッチを切ってください。

① ルーパーカバーと布板をひらきます。

② 針と押えをはずします。

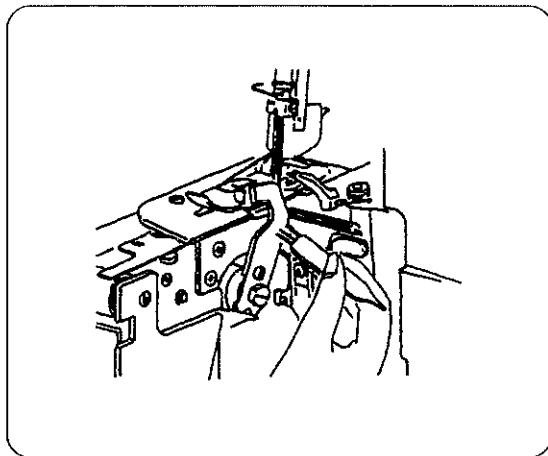
③ 針板しめねじをはずし、針板をはずします。



④ 送り歯のごみを、ブラシで落とします。

⑤ 針板、押え、針をとりつけ、ルーパーカバーと布板をしめます。

☆ 切りくずの掃除

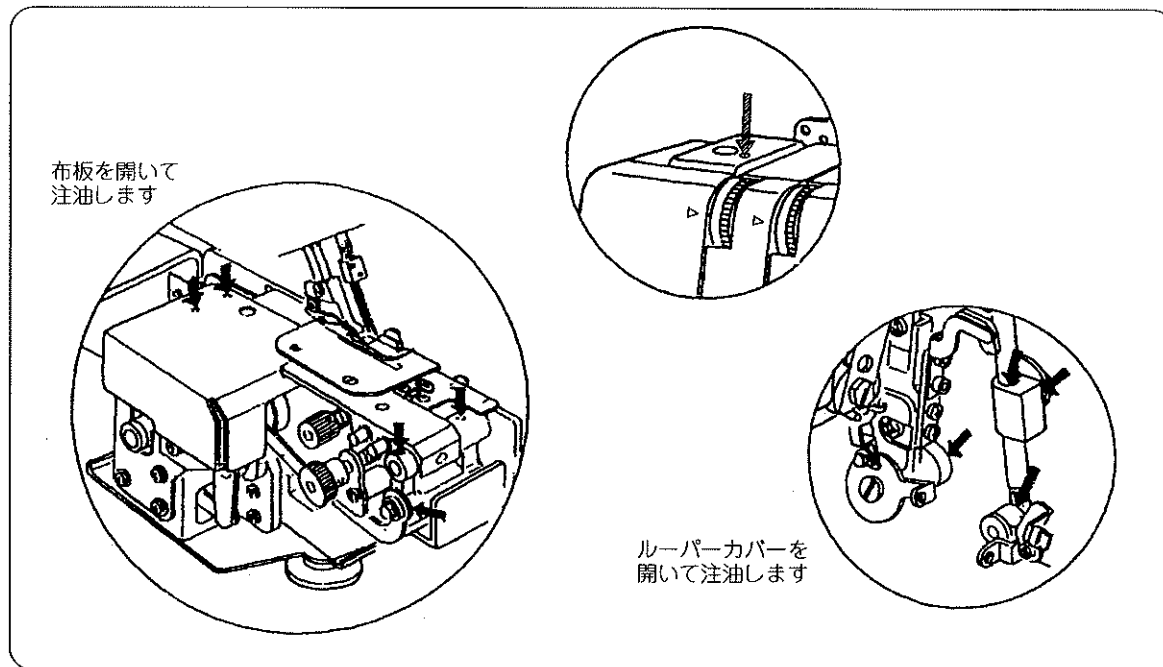


⚠ 電源スイッチを切ってください。

ルーパーカバーをひらき、切りくずをブラシで取り除きます。

* ブラシで掃除しにくい切りくずや、ほこりは、電気掃除機で吸い取ってください。

☆ 注油の仕方



布板を開いて注油します

ルーパーカバーを開いて注油します

⚠ 電源スイッチを切ってください。

矢印の箇所に良質のミシン油を1~2滴注油します。

注油後、布板とルーパーカバーをしめ、押えをあげます。電源スイッチを入れ、1~2分ほどミシンを回転させて、よく油をしみこませます。

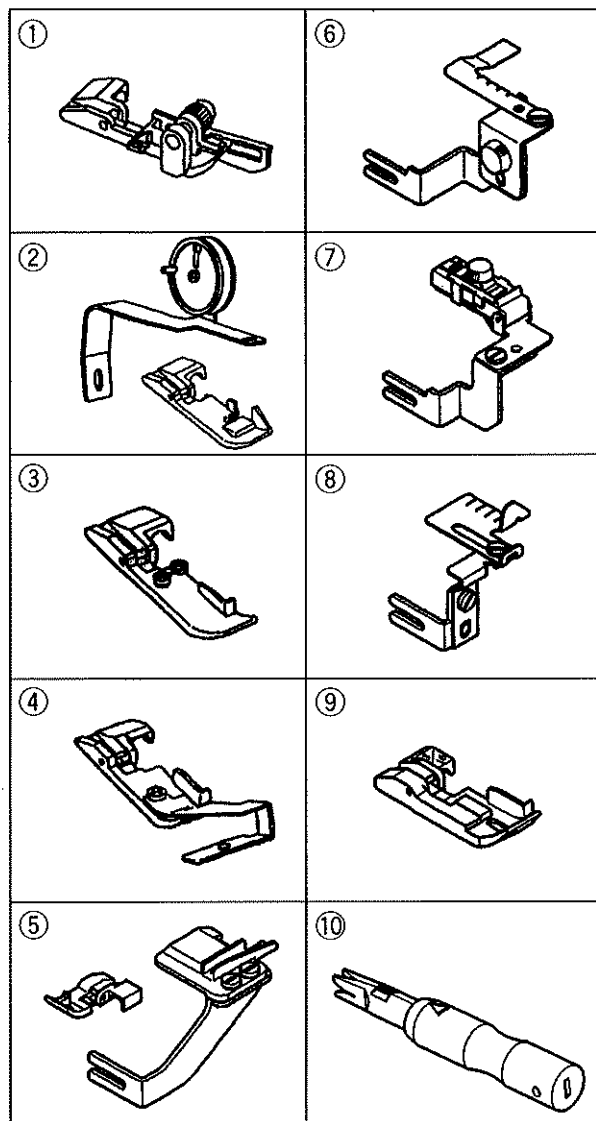
* 快適にご使用いただくために、定期的な注油をしてください。

⚠ ミシンを回転させるときは、必ずルーパーカバーと布板を閉めてから行ってください。

☆ 別売付属品

- お客様方からのご要望を反映して、特定の用途を満たし、便利で美しい仕上がりを手助けする、各種アタッチメント類を用意しておりますので、ご利用ください。

①	裾引き押え NO.200236106	ズボンやスカートのすそのまつり縫いが美しくできます。
②	テープ付けセット NO.200237107	市販テープをリールに巻き取って、ニット地など伸縮性のある布地の肩線や脇縫いの伸び止めに使用します。
③	コード付け押え(1) NO.200238108	飾りコード付け、フィッシュライン(テグス)付けによる波立てフリル等に使用します。
④	コード付け押え(2) NO.200239109	広巾巻き縫い(芯入り)でテーブルクロスなどの縁どりに、又ニット地に毛糸等を一緒に縫うと伸び止めの効果ができます。
⑤	ビーズ付けセット NO.200240103	市販ビーズによる衣服のビーズ飾り縫い等に使用します。使用ビーズ径は1~4mmです。
⑥	ギャザリングアタッチメント NO.200241104	袖付け、袖口、えりぐり付け等に使用します。
⑦	ゴムテープ付けアタッチメント NO.200242105	衣服のすそなどのゴムテープ付けが簡単にできます。サイズは、3.5~8mmに使用できます。
⑧	布ガイド NO.200243106	フラットロック、ピンタック縫いなどへ多様に使用できます。布のガイドや布の切り代のガイドに使用します。
⑨	パイピング押え NO.200244107(3mm用) NO.200245108(5mm用)	パイピング(パイヤステープ)材による補強や飾り縫い。サイズは3mm(1/8")用と、5mm(3/16")用を別々に用意しています。
⑩	針糸通し NO.200254100	誰にでも簡単に使える針糸通しです。是非一度お試しください。



☆ 調子がよくないときの直し方

調子がよくない状態	原因	直し方
布地を送らない。	<ul style="list-style-type: none"> • 押えがあがっている。 • 送り歯が切りくずでつまっている。 	<p>押えをおろす。 37ページ参照。</p>
針が折れる。	<ul style="list-style-type: none"> • 針のつけかたがまちがっている。 • 針がまがっていたり、針先がつぶれている。 • 布地を無理に引っばった。 • 指定の針を使っていない。 	<p>8ページ参照。 8ページ参照。 縫う時は後ろへ軽く引く程度にする。 HA-1SP # 11～# 14をご使用ください。</p>
糸が切れる。	<ul style="list-style-type: none"> • 糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 • 糸調子が強すぎる。 • 針のつけ方がまちがっている。 • 針がまがっていたり、針先がつぶれている。 	<p>15～23、29ページ参照。 27～30、32～35ページ参照。 8ページ参照。 8ページ参照。</p>
縫い目がとぶ。	<ul style="list-style-type: none"> • 針のつけ方がまちがっている。 • 針がまがっていたり、針先がつぶれている。 • 糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 	<p>8ページ参照。 8ページ参照。 15～23、29ページ参照。</p>
縫い目の調子が悪い。	<ul style="list-style-type: none"> • 糸調子が強すぎるか、弱すぎる。 • 補助糸調子スライドつまみとスライド糸案内の設定がまちがっている。 • 糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 • 針と糸が布に対して合っていない。 • 糸調子皿に、糸がきちんと入っていない。 • 切り幅の調節が合っていない。 	<p>27～30、32～35ページ参照。 13ページ参照。 15～23、29ページ参照。 31～35ページ参照。 15～23ページ参照。 11ページ参照。</p>
縫い目がしわになる。	<ul style="list-style-type: none"> • 糸調子が強すぎる。 • 糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 • 送りまたは縫い目伸縮調節ダイヤルの設定がまちがっている。 • かがり爪位置の設定がまちがっている。 • 切り幅の調節が合っていない。 	<p>27～30、32～35ページ参照。 15～23、29ページ参照。 10、31～35ページ参照。 12ページ参照。 11ページ参照。</p>
ミシンがまわらない。	<ul style="list-style-type: none"> • コンセントにプラグがきちんとさしこまれていない。 • 電源スイッチがOFFになっている。 	<p>24ページ参照。 ONにする。</p>

仕 様			
使用電圧	100V 50/60Hz	縫 速 度	毎分 1350回転
消費電力	105W	使 用 針	家庭用 HAX1・SP針11番・14番
外形寸法	幅29cmX奥行27cmX高さ27cm	縫い目あらさ	1～5mm
重 量	7.5Kg (本体)	か が り 幅	3.5mm・5.7mm (3本糸) 5.7mm (4本糸)

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

お 客 様 相 談 コ ー ナ ー

★ジャノメマシンでは全国180の直営支店で万全のアフターサービスをしております。

この手びきに書かれている方法で直らないときは、最寄りの支店へご連絡ください。

★お問い合わせの際は、この手びきをお読みになりながらお電話くださると係員も故障の原因や箇所がわかって便利です。

★アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、本社お客様相談室または、下記の代表支店へ何なりとお申しつけください。

本社・お客様相談室 ☎ ~~03-(3277)-2200~~ 042-661-2600

☎ ~~104-8311~~ 東京都中央区京橋3-1-1

仙台支店 ☎ 022 (249) 4161

☎ 982-0011 宮城県仙台市太白区長町5-3-25

富山支店 ☎ 0764 (31) 8827

☎ 930-0029 富山県富山市本町3-25

池袋支店 ☎ 03 (3987) 5266

☎ 170-0013 東京都豊島区東池袋1-28-7

千葉支店 ☎ 043 (222) 5121

☎ 260-0012 千葉県千葉市中央区本町1-5-14

名古屋支店 ☎ 052 (733) 5116

☎ 466-0027 愛知県名古屋市昭和区阿由知通1-12-3

大阪支店 ☎ 06 (6583) 8031

☎ 552-0002 大阪府大阪市港市区市岡元町3-1-4

尼崎支店 ☎ 06 (6481) 2193

☎ 660-0893 兵庫県尼崎市西灘波町4-6-30

岡山支店 ☎ 086 (222) 8896

☎ 700-0814 岡山県岡山市天神町1-26

観音寺支店 ☎ 0875 (25) 2887

☎ 768-0060 香川県観音寺市駅通り甲1017-5

福岡西新支店 ☎ 092 (821) 6495

☎ 814-0002 福岡県福岡市早良区西新2-6-2

(株) ジャノメ北海道販売

札幌本店 ☎ 011 (861) 5634

☎ 003-0027 札幌市白石区本通3丁目北1-21

※上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

ジャノメマシン

東京都中央区京橋3-1-1 蛇の目マシン工業 (株)

788-800-609